

Active!gateSS

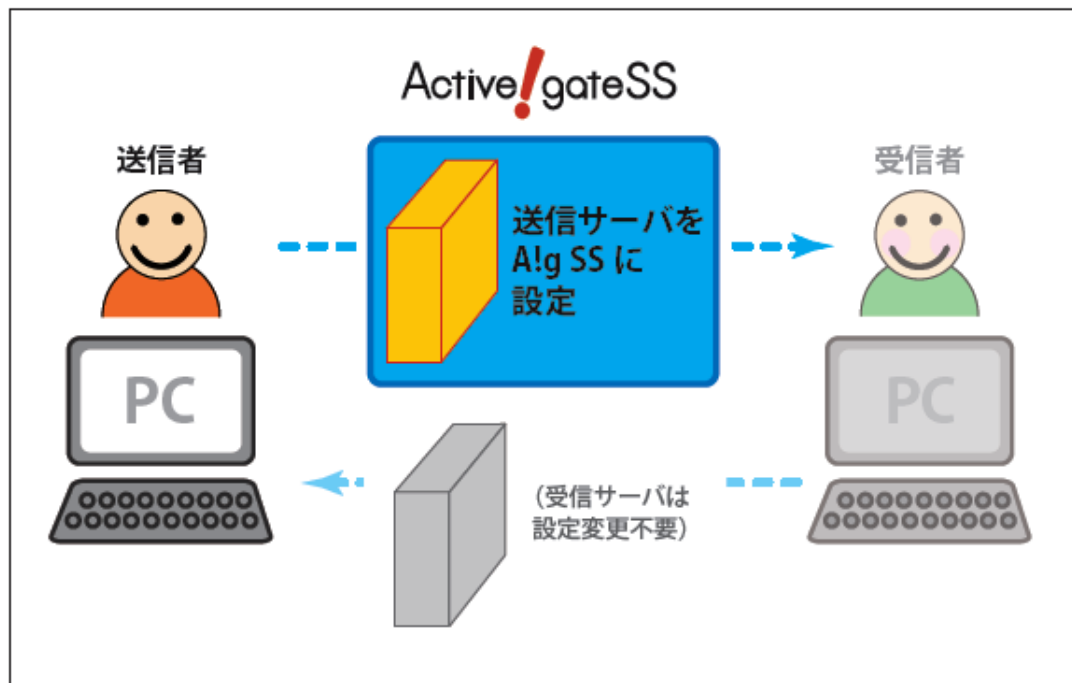
国内版
送信設定マニュアル

目次

1	設定イメージ	1
第1章	ご利用されるメールソフトとの連携手順	3
1	メールアプリ（Windows 10）設定方法	4
2	Outlook2016 設定方法	8
3	Thunderbird 設定方法	11
4	Becky 設定方法	12
5	Apple Mail 設定方法	14
第2章	Google Workspaceユーザー向け Active!gate SS との連携手順	17
1	サービス開始前の確認事項	18
2	「組織部門」単位での設定	20
3	全てのユーザーがActive!gate SSをご利用される場合の設定	21
3.1	Google Workspace 管理者にてログイン	22
3.2	[設定]画面へ移行する	23
3.3	[ホスト]を設定する	25
3.4	[送信ゲートウェイ]の確認	27
3.5	[ルーティング]にてメールの送信先を変更する	28
3.6	設定の完了	31
4	一部のユーザーがActive!gate SSをご利用される場合の設定	32
4.1	Google Workspace 管理者にてログイン	33
4.2	[設定]画面へ移行する	33
4.3	[ホスト]を設定する	36
4.4	[ルーティング]にてメールの送信先を変更する	38
4.5	設定の完了	41
第3章	Microsoft 365ユーザー向け Active!gate SS との連携手順	43
1	サービス開始前の確認事項	44
2	全てのユーザーがActive!gate SSをご利用される場合の設定	45
2.1	Microsoft 365 管理者にてログイン	45
2.2	[Exchange]画面へ移行する	45
2.3	[送信コネクタ]を設定する	46
2.4	[送信コネクタ]の確認	51
3	一部のユーザーのみActive!gate SSをご利用される場合の設定	52
3.1	Microsoft 365 管理者にてログイン	52
3.2	[Exchange]画面へ移行する	52
3.3	[送信コネクタ]を設定する	53
3.4	[送信コネクタ]の確認	58
3.5	[トランスポートルール]の作成	59
第4章	Google Workspaceの[もっと見る]によるSSO連携について	73
1	Google Workspace連携の利用申し込み手順	74
1.1	弊社営業部に連絡	74
1.2	弊社にてGoogle Workspace Authサーバに情報を登録	74
1.3	登録完了。マーケットプレイスURL記載の通知メールを返送	74
2	連携用アプリのダウンロードと設定	75
2.1	通知メールに記載のURLをクリック	75
2.2	アプリをインストール	75
2.3	ダウンロード、設定完了	76

1 設定イメージ

ご利用のメールの設定を変更していただきます。
送信サーバを、Active! gate SS に変更してください。



次頁より代表的なメールプログラムの送信サーバの設定手順を記載致します。送信サーバの設定変更のみが対象で、受信サーバの設定は変更致しませんのでご注意ください。

第1章

ご利用されるメールソフトとの連携手順



注意

現在ご利用中のメールソフトからActive!gate SS に対して、SMTP認証を使用してメールを送りたい場合は、ご契約されました代理店様、または弊社営業担当までご相談下さい。

1 メールアプリ（Windows 10）設定方法

編集するアカウントの「アカウントの設定」画面を開きます。

The screenshot shows a dialog box titled 'アカウントの設定' (Account Settings) with a close button (X) in the top right corner. The main title is 'user アカウントの設定' (user Account Settings). Below this, there is a list of settings:

- Email address: user@example.jp (with an envelope icon)
- User name: user (in a text box with a clear button X)
- Password: (in a masked text box with 12 dots)
- Account name: user (in a text box)

Below the settings, there is a section with a yellow callout bubble containing the number 1:

メールボックスの同期設定を変更
コンテンツを同期するためのオプションです。

アカウントの削除
このアカウントをデバイスから削除します。

At the bottom, there are two buttons: '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel).

1 [メールボックスの同期設定を変更]をクリックします。

アカウントの設定

user の同期設定

新しいメールをダウンロードする頻度

使用状況に応じて

1 日に大量のメールを受け取っている場合でも、数日に一度しかアカウントをチェックしない場合でも、状況に応じて同期設定を変更して、データ通信量とバッテリーを節約します。

現在の同期間隔: 2 時間ごと

☒ 常にメッセージ全体とインターネット画像をダウンロードする

ダウンロードするメールの期間

過去 3 か月間

この名前を使用してメッセージを送信

user

同期オプション

メール

☒ オン

メールボックスの詳細設定

受信および送信メール サーバーの情報

完了

キャンセル

1

[メールボックスの詳細設定]をクリックします。

メールサーバに関する設定を行います。

アカウントの設定

user の同期設定
過去 3 か月間

この名前を使用してメッセージを送信
user

同期オプション

メール
☒ オン

受信メール サーバー
imap.example.jp

送信 (SMTP) メール サーバー

☒ 送信サーバーは認証が必要

☒ メール送信に同じユーザー名とパスワードを使う

☒ 受信メールに SSL を使う

☒ 送信メールに SSL を使う

完了 キャンセル

1

[送信 (SMTP) メールサーバー] にサービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力します。
設定内容はお客様の環境によって変わります。必ずサービス開通確認書の「送信用ホスト」をご確認下さい。

トライアルのお客様は、トライアルユーザ様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「メールクライアント」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。

2

[送信サーバーは認証が必要]チェックボックスにチェックを入れます。
(リレー許可IP オプションをご契約のお客様については任意となります。)

3

[完了]ボタンをクリックします。

「アカウントの設定」に戻ります。

アカウントの設定

user アカウントの設定

✉ user@example.jp

ユーザー名

user

パスワード

●●●●●●●●●●●●●●●●

アカウント名

user

メールボックスの同期設定を変更
コンテンツを同期するためのオプションです。

アカウントの削除
このアカウントをデバイスから削除します。

1 保存 キャンセル

1 [保存]ボタンをクリックします。

以上でメールアプリによる送信サーバの設定手順は終了となります。

2 Outlook2016 設定方法

設定を行うメールアカウントの「アカウントの変更」メニューを開きます。

アカウントの変更

POP と IMAP のアカウント設定
お使いのアカウントのメール サーバーの設定を入力してください。

ユーザー情報
 名前(Y): user@example.jp
 電子メール アドレス(E): user@example.jp

サーバー情報
 アカウントの種類(A): IMAP
 受信メール サーバー(I): imap.example.com
 送信メール サーバー (SMTP)(Q): 1

メールサーバーへのログイン情報
 アカウント名(U): user@example.jp
 パスワード(P): *****
☒ パスワードを保存する(R)

☐ メールサーバーがセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) に対応している場合には、チェック ボックスをオンにしてください(Q)

アカウント設定のテスト
 アカウントをテストして、入力内容が正しいかどうかを確認することをお勧めします。
 アカウント設定のテスト(I)
☐ [次へ] をクリックしたらアカウント設定を自動的にテストする(S)
 オフラインにしておくメール: すべて

詳細設定(M)... 2

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

1

[送信メールサーバ (SMTP)] にサービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力します。設定内容はお客様の環境によって変わります。必ずサービス開通確認書の「送信用ホスト」をご確認ください。

トライアルのお客様は、トライアルユーザ様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「メールクライアント」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。

2

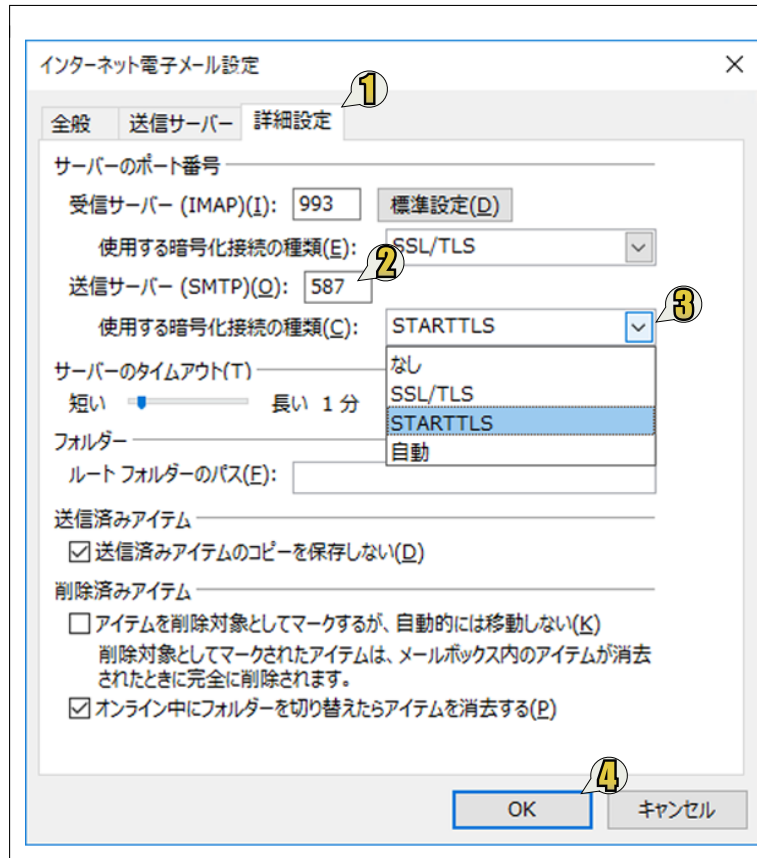
[詳細設定]ボタンをクリックします。

「インターネット電子メール設定」メニューでメール送信の際に行う認証に関する設定を行います。

①	[送信サーバ]タブを選択します。
②	[送信サーバ (SMTP) は認証が必要]チェックボックスにチェックを入れます。 (リレー許可IP オプションをご契約のお客様については任意となります。)
③	ログオン情報を設定します。 <div> <p>[受信メールサーバと同じ設定を使用する] 前述「電子メールアカウントの変更」メニューの[メールサーバへのログオン情報]と同じ認証情報を使用する場合は、こちらを選択します。</p> <p>次のアカウントとパスワードでログオンする 送信用の認証情報を設定する必要がある場合はこちらを選択し、[アカウント名]と[パスワード]に認証情報を入力します。</p> </div>
④	[パスワードを保存する]のチェックボックスは任意です。 保存する場合はチェックを入れます。

つづいて、「詳細設定タブ」へ移動します。

サーバのポート番号を設定します。



① [詳細設定]タブを選択して下さい。

② [送信サーバー (SMTP)]のポート番号に **587** を入力します。

③ [使用する暗号化接続の種類] で **[STARTTLS]** を選択します。

④ [OK]ボタンをクリックします。

以上で Microsoft Outlook 2016 による送信サーバの設定手順は終了となります。



注意

メール送信時に複数の宛先を指定した際に、その宛先ごとに異なるメッセージ形式が指定されていた場合は、別々のメールとして送信される場合があります。

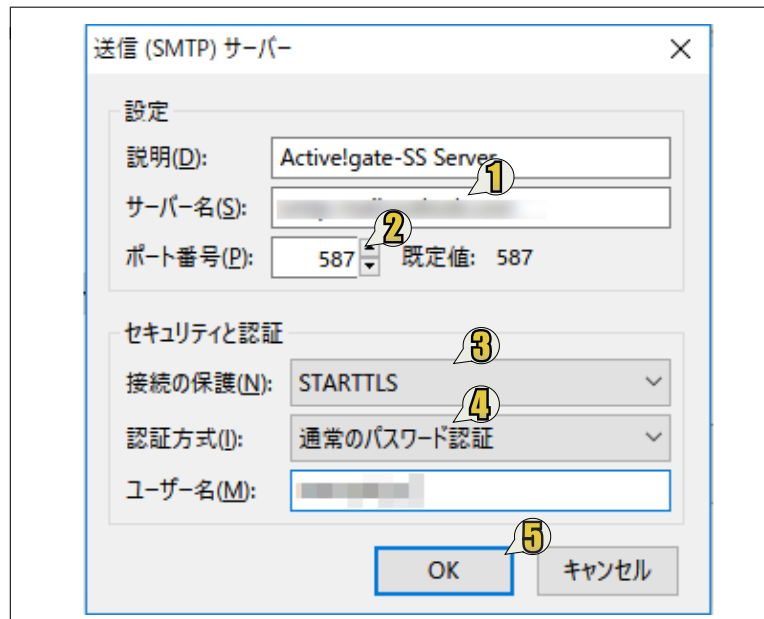
詳細は：<http://office.microsoft.com/ja-jp/outlook-help/HP001232996.aspx#BM3>

[指定したインターネット受信者へのすべてのメッセージに適用するメッセージ形式を変更する]

上記場合において保留ポリシーを使用した際、1つのメールでも2通の保留通知メールが届く場合があります。ご注意ください。

3 Thunderbird 設定方法

設定を行うメールアカウントが使用する「アカウント設定」メニューの[送信 (SMTP) サーバ]を開いて行います。

**1**

[サーバ名] にサービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力します。

設定内容はお客様の環境によって変わります。必ずサービス開通確認書の「送信用ホスト」をご確認下さい。

トライアルのお客様は、トライアルユーザ様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「メールクライアント」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。

2

[ポート番号]を **587** にします。

3

セキュリティと認証の[接続の保護]から **STARTTLS** を選択します。

4

[認証方式] から**通常のパスワード認証** を選択します。

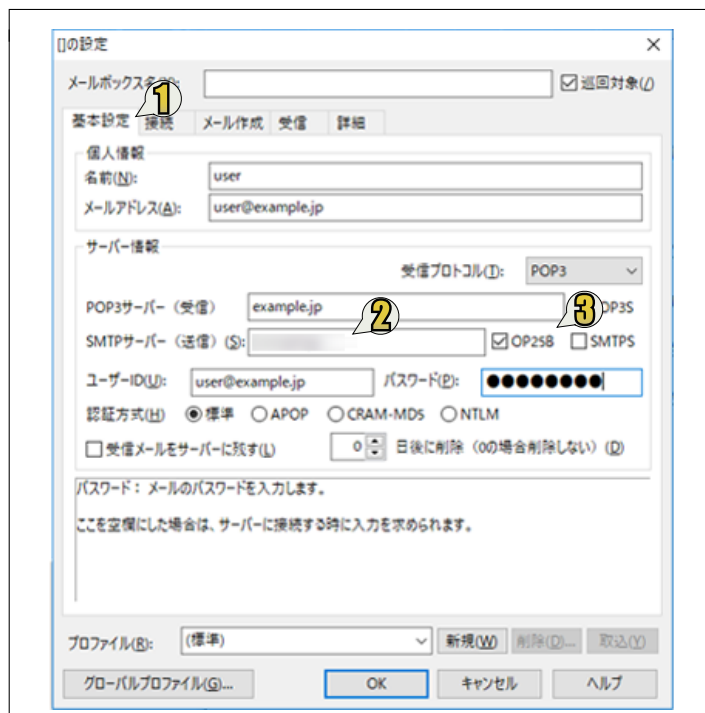
5

[OK]ボタンをクリックします。

以上で Thunderbird による送信サーバの設定手順は終了となります。

4 Becky 設定方法

「メールボックスの設定」メニューの[送信 (SMTP) サーバ]を開いて行います。



① 「基本設定」タブを選択して下さい。

② [SMTP サーバ (送信)] にサービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力します。
設定内容はお客様の環境によって変わります。必ずサービス開通確認書の「送信用ホスト」をご確認下さい。

トライアルのお客様は、トライアルユーザー様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「メールクライアント」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。

③ [OP25B]チェックボックスにチェックを入れます。

つづいて、「詳細タブ」へ移動します。

メール送信の際に行う認証に関する設定を行います。

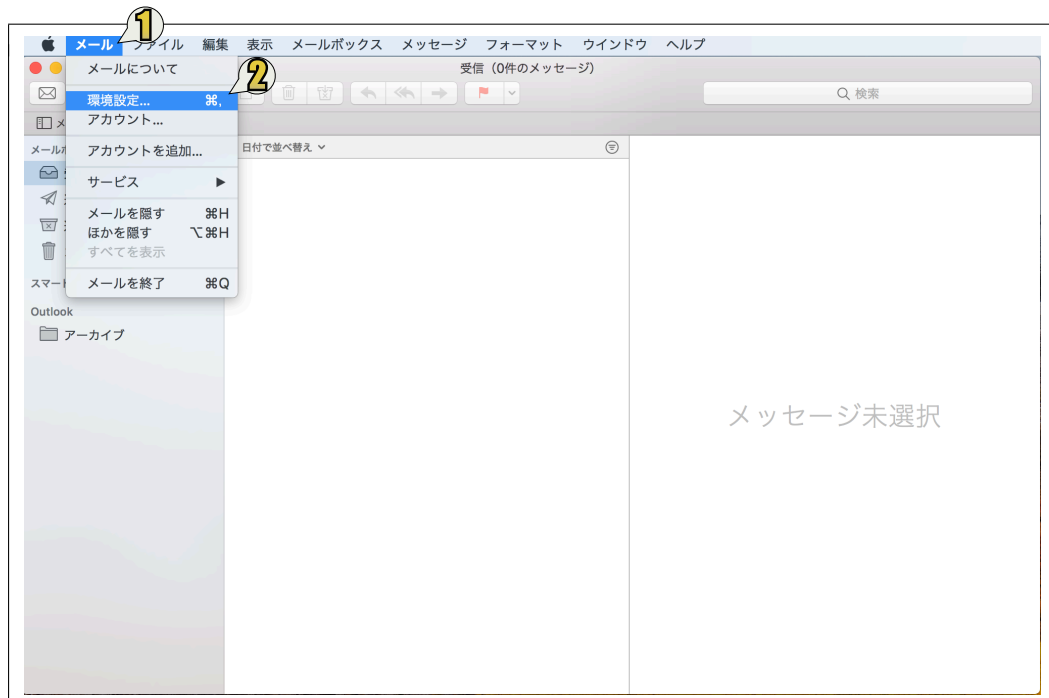


①	[詳細]タブを選択して下さい。
②	サーバのポート番号にて[SMTP]が 587 になっている事を確認します。
③	[SMTP 認証]と[CRAM-MD5]及び[LOGIN]チェックボックスにチェックがされている事を確認します。 (リレー許可IP オプションをご契約のお客様については任意となります。)
④	[ユーザID]と[パスワード]はユーザ認証用のID とパスワードを入力しますが、「基本設定」タブ内の受信用情報 (ユーザID/パスワード) を使用する場合は何も入力しません。
⑤	[ESMTP を使用]チェックボックスにチェックが入っている事を確認します。
⑥	SSL/TLS関連にて[送信用]から STARTTLS を選択します。(サーバとの間の通信を暗号化します。) 任意ですので利用しない場合は[デフォルト]でも結構です。 STARTTLS を選択すると下記メッセージボックスが現れますので[はい]をクリックします。(「基本設定」タブの[SMTPS]にチェックが入ります。)
⑦	最後に[OK]ボタンをクリックして終了です。

以上で Becky Internet による送信サーバの設定手順は終了となります。

5 Apple Mail 設定方法

すでにアカウントを追加されている状態からの説明となります。



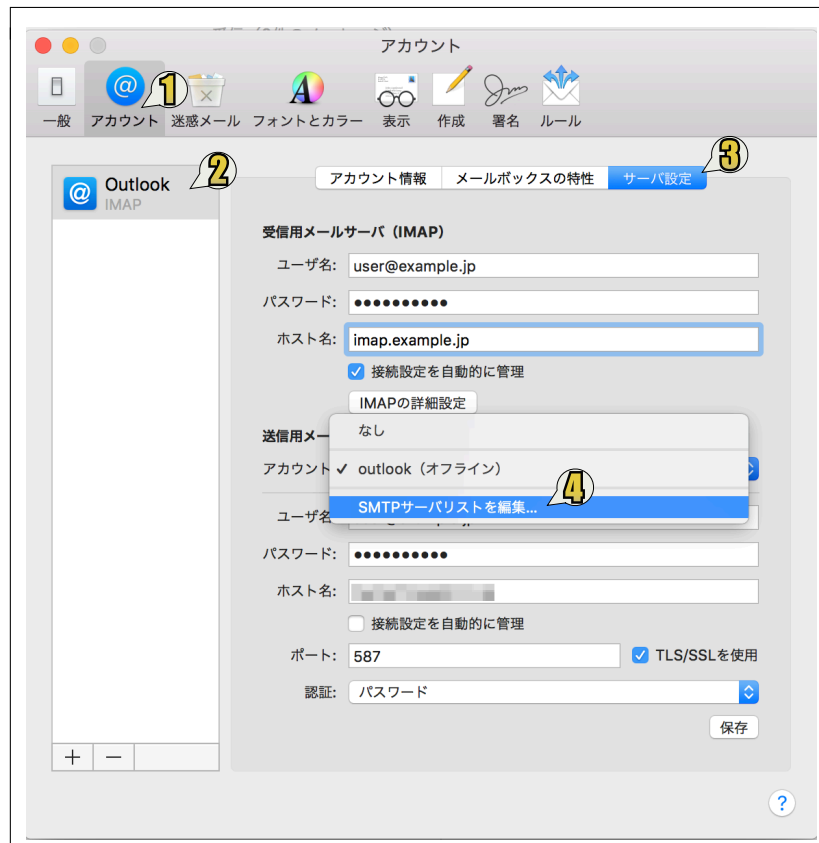
1

「メール」メニューを選択して下さい。

2

「環境設定」を選択して下さい。

アカウントに関する設定を行います。



① 上部のメニューから[アカウント]を選択します。

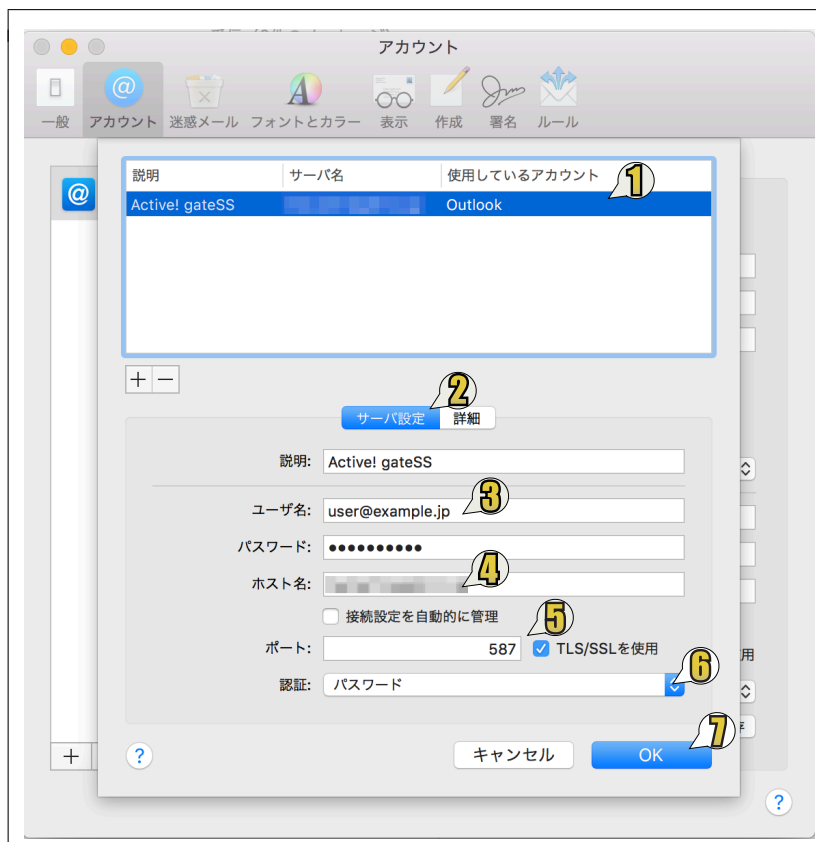
② 変更を行うユーザアカウントを選択します。

③ [サーバ設定]を選択します。

④ [送信用メールサーバ (SMTP)] のプルダウンから「SMTPサーバリストを編集」を選択します。

続いて、SMTPサーバに関する設定を行います。

メール送信の際に行うサーバに関する設定を行います。



1	編集するサーバ設定を選択します。
2	[サーバ設定] タブを選択します。
3	[ユーザ名] と [パスワード] を入力します。
4	[ホスト名] にサービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力します。 設定内容はお客様の環境によって変わります。必ずサービス開通確認書の「送信用ホスト」をご確認下さい。 トライアルのお客様は、トライアルユーザ様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「メールクライアント」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。
5	[ポート] に 587 を入力し、[TLS/SSL を使用] にチェックを入れます。
6	[認証] で [パスワード] を選択します。 (リレー許可IP オプションをご契約のお客様については任意となります。)
7	[OK] ボタンをクリックします。

以上で Apple Mail による送信サーバの設定手順は終了となります。

第2章

Google Workspaceユーザー向け Active!gate SS との連携手順

Google Workspaceユーザーに向けたActive!gate SSとの連携についてご説明致します。Google Workspaceをご利用されていないお客様は、別紙、管理者 マニュアル からお読み下さい。



注意

[すでに弊社 誤送信防止 サービス Active!gate SS をご利用のお客様へ]

これは弊社 Active!gate SS サービスを初めてご利用されるお客様へ向けた連携手順マニュアルとなります。

すでに Google Workspace - 送信ゲートウェイ 欄で弊社サービスをご利用されているお客様には弊社営業本部、または弊社サポートセンターより、移行用の連携手順マニュアルをお渡ししております。お手数ですが、現在の環境をご確認の上、ご不明な点がございましたら弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

1 サービス開始前の確認事項

SPFの設定を行っている場合には、下記の通りお客様が使用しているDNSサーバに追記して頂きます様
 よろしくお願い致します。

下記はGoogle Workspaceをご利用されているお客様のSPF設定となります。
ご利用されている環境をご確認の上、追記をお願い致します。

IN TXT "v=spf1 include: spf.google.com ~all"



IN TXT "v=spf1 include: spf.google.com include: spf.activegate-ss.ip ~all"

ファイアウォールなどで、IPアドレス制限を設定し特定のIPのみ許可されている場合は、下記弊社IPアドレス範囲に対しての通信も許可頂くようお願い致します。

- ① 【IP Address】 125.252.89.192/26
- ② 【IP Address】 223.27.116.0/22
- ③ 【IP Address】 202.241.206.0/25



注意

Google WorkspaceではCcやBccのみにメールアドレスを入力して送信された場合、multipartの boundary が宛先毎に異なった内容でメールが配送されます。

Active!gate SSでは、multipartの boundary の内容が異なると同一のメールでも別のメールとして処理致します。その場合 [保留通知メール] や [パスワード通知メール] が送った宛先数分配送されます。メールを送信される場合は、必ず宛先(To)にもメールアドレスを入力して頂きますようお願い致します。



注意

Google Workspaceの管理コンソールに「フッターを追加」という設定項目があります。

設定を追加

フッターを追加

 ヘルプ

必須：設定の概要に表示される短い説明を入力します。

- すべての送信メールに次のフッターを追加します

B	I	U	X _s	X' _t	[Text Color]	[Background Color]	S	A	L	C	E	R	T	H	F	O	N	T	M	A	K	E	P	Icons
背景																								
▼																								
前景																								
▼																								
標準																								
▼																								
サイズ																								
▼																								

- オプション

☐ 組織内で送信されるメールにフッターを追加する。

(手差しポインタと赤いXマーク)

キャンセル **設定を追加**

Google Workspaceの設定で「組織内で送信されるメールにフッターを追加する。」が有効の場合、送信されるメール本文のBODYが内部宛と外部宛で異なる内容となるため、Active!gate SSでは異なるメールとして処理します。そのため、「保留通知メール」や「パスワード通知メール」が複数配送されます。ご注意ください。

**注意**

Google Workspace ではヘッダのFromを変更して送信する機能があります。

別のアドレス又はエイリアスからメールを送信する
<https://support.google.com/mail/answer/22370>

Active!gate SSでは上記を使用している場合は登録ユーザとして送信されますが、以下の問題が発生します。

[オリジナル運用プラン(共用タイプ)を利用されている場合]

上記のFromアドレスを変更する機能を使用した際、サービス仕様上ポリシーが適用されません。

[オリジナル運用プラン(共用タイプ以外)を利用されている場合]

上記のFromアドレスを変更する機能を使用した際、ポリシーグループならびにグループポリシーの適用対象と判定されないことで一部のポリシーが適用されない場合があります。

あらかじめご注意ください。

2 「組織部門」単位での設定

**注意**

Google Workspaceの組織部門単位でActive!gate SSを利用し、かつ弊社メールアーカイブサービス Active!vault SSを併せて利用される場合は、本マニュアルの設定を行う前に必ず弊社営業部または購入した代理店へご相談ください。2021年7月以前のマニュアルを使用されると、予期しない動作を引き起こす可能性があります。ご注意ください。

Google Workspaceでは、使用されているドメインの下に「組織部門」を作成できます。「組織部門」を追加すると、次ページ以降で説明する「ルーティング」画面が以下のようになり、組織部門を選択できるようになります。

特定の組織部門限定でActive!gate SSを利用する場合は、次ページ以降で「ルーティング」の設定を行う際に「組織部門」を選択してから操作を行ってください。



組織部門についての詳細は、Google Workspaceのヘルプ「組織部門の追加」をご参照ください。

次ページより、Google Workspace側での設定をご説明致します。

本マニュアルに記載の情報は **2021年7月1日** 現在のものです。Google Workspaceでは予告なくインターフェースが変わる場合があります。その際は弊社サポート問い合わせまでご連絡頂ければ幸いです。

3 全てのユーザがActive!gate SSをご利用される場合の設定

お客様のGoogle Workspaceドメイン又は選択した組織部門の全てのユーザに対し弊社サービスと連携する手順をご説明します。



注意

Google Workspace組織部門単位でActive!gate SSを利用し、かつ弊社メールアーカイブサービス Active!vault SSを併せて利用される場合は、本マニュアルの設定を行う前に必ず弊社営業部または購入した代理店へご相談ください。
2021年7月以前のマニュアルを使用されると、予期しない動作を引き起こす可能性があります。ご注意ください。

3.1 Google Workspace 管理者にてログイン

Google Workspaceの管理者画面にて管理者権限でログインをして下さい。

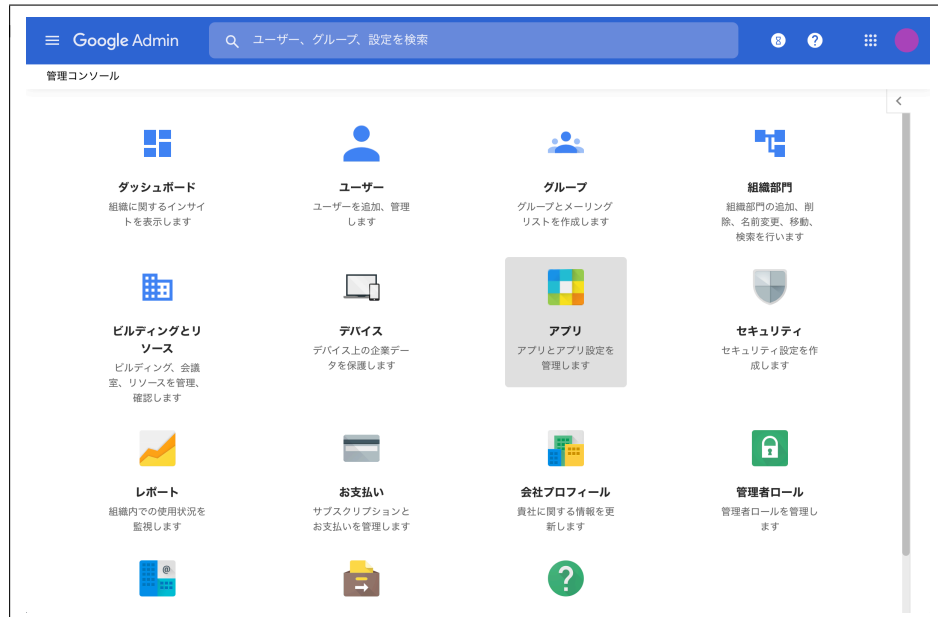
【URL】 <https://www.google.com/a/DomainName> ^a

^a DomainNameはお客様がご利用されてるGoogle Workspaceのドメイン名です。
例 : <https://www.google.com/a/xxxxxx.example.jp/>

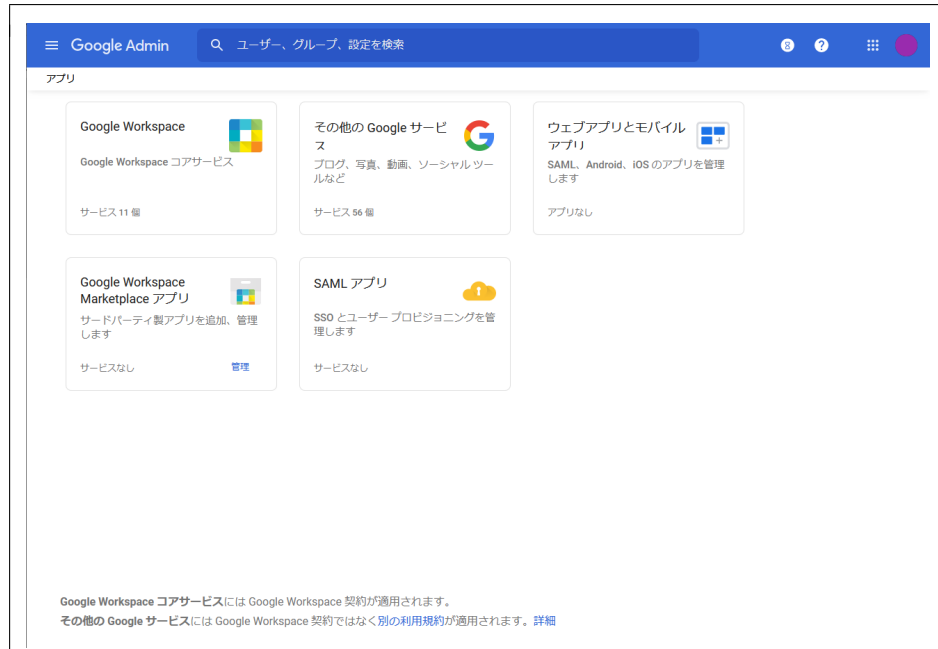


3.2 [設定]画面へ移行する

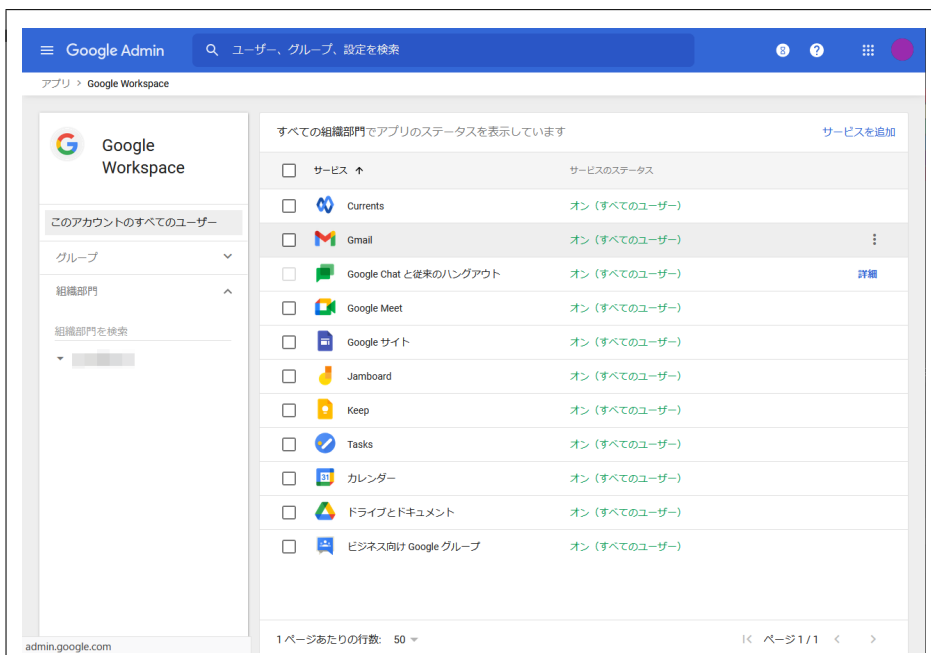
ログイン後、管理コンソールと呼ばれる画面に入ります。[アプリ] をクリックします。



次の画面へ移動しましたら続いて [Google Workspace] をクリックします。



次の画面へ移動しましたら続いて [Gmail] をクリックします。

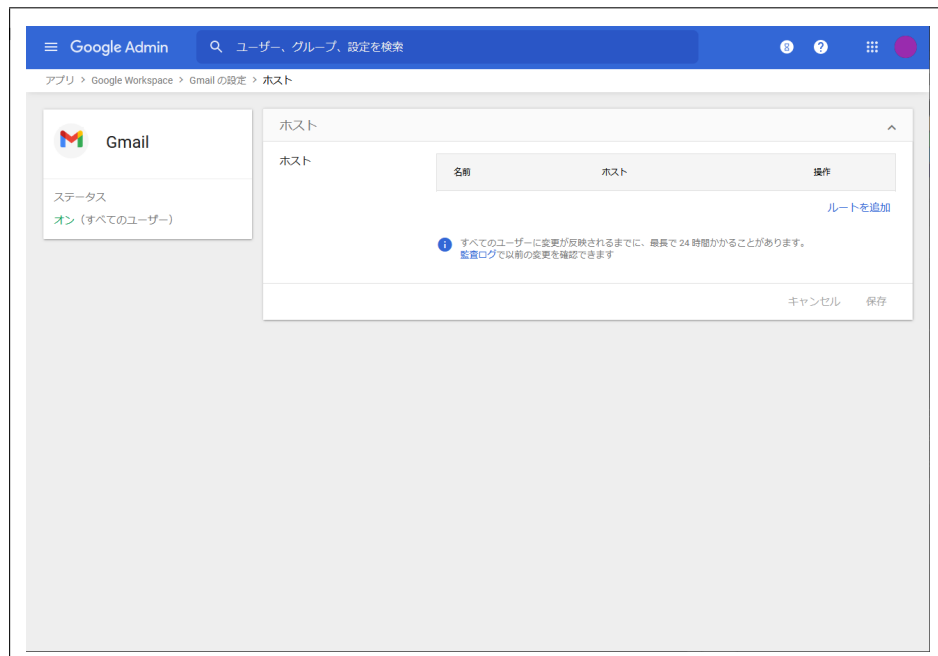


[Gmail] を管理する画面に移動します。画面下部にあります [ホスト] をクリックします。



3.3 [ホスト]を設定する

設定画面の右下にある[ルートを追加]ボタン をクリックします。



設定画面が表示されますので、下記の通りに入力します。

メールのルートを追加

名前

[Active! gate SS] 配送用

このフィールドは必須です。

1. メールサーバーの指定

番号が 25、587、1024～65535 のポートのみ使用できます。

単一のホスト

: 25

2. オプション

☐ ホストで MX ルックアップを実行する

☒ メールを送受信時にセキュリティ プロトコルで保護された (TLS) 接続を必須とする (推奨)

☐ CA の署名付き証明書を必須とする (推奨)

☐ 証明書のホスト名を検証する (推奨)

TLS 接続をテスト


詳細

キャンセル

保存

1**【名前】**

設定するホストの名前を設定します。ここでは「[Active! gate SS]配送用」としています。あとでわかりやすい名前にすることをお勧めします。

2	【メールサーバの指定】
	<p>リストから「単一のホスト」を選択し、下の入力欄にホスト名とポート番号を入力します。 ポート番号は25です。</p> <div data-bbox="204 244 1232 404"><p> 注意</p><p>ホストはお客様ごとに異なります。サービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力してください。 トライアルのお客様は、トライアルユーザー様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「Google Workspace」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。</p></div>
3	【オプション】 <p>以下の通りに設定します。</p> <p>ホストでMXルックアップを実行する <input type="checkbox"/> チェックしない</p> <p>メールの送受信時にセキュリティプロトコルで保護された(TLS)接続を必須とする <input checked="" type="checkbox"/> チェックする</p> <p>CAの署名付き証明書を必須とする <input type="checkbox"/> チェックしない</p>

すべての項目が正しく入力されていることを確認し、[保存]ボタンをクリックします。

**注意**

設定してから反映されるまでに最大24時間かかる場合があります。

**注意**

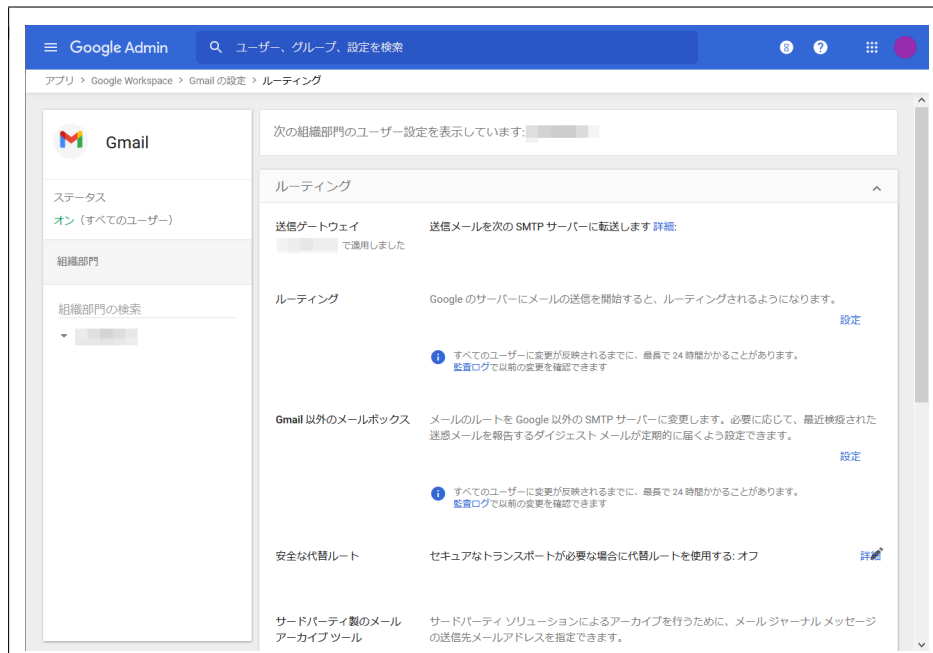
すでに弊社 メールアーカイブサービス Active!vault SS を利用している場合、ホスト設定画面には [Active! vault SS] 配送用 または [送信用] アーカイブの設定が存在する可能性があります。その場合、それらの設定は削除する必要はありません。ご注意ください。

3.4 [送信ゲートウェイ]の確認

Gmailの設定画面に戻り、画面下部にある [ルーティング] をクリックします。



[ルーティング] 画面が表示されます。[送信ゲートウェイ]欄を確認し、空欄の場合はそのまま設定を続行してください。



[送信ゲートウェイ]に値が設定済みの場合はこの手順を中止し、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

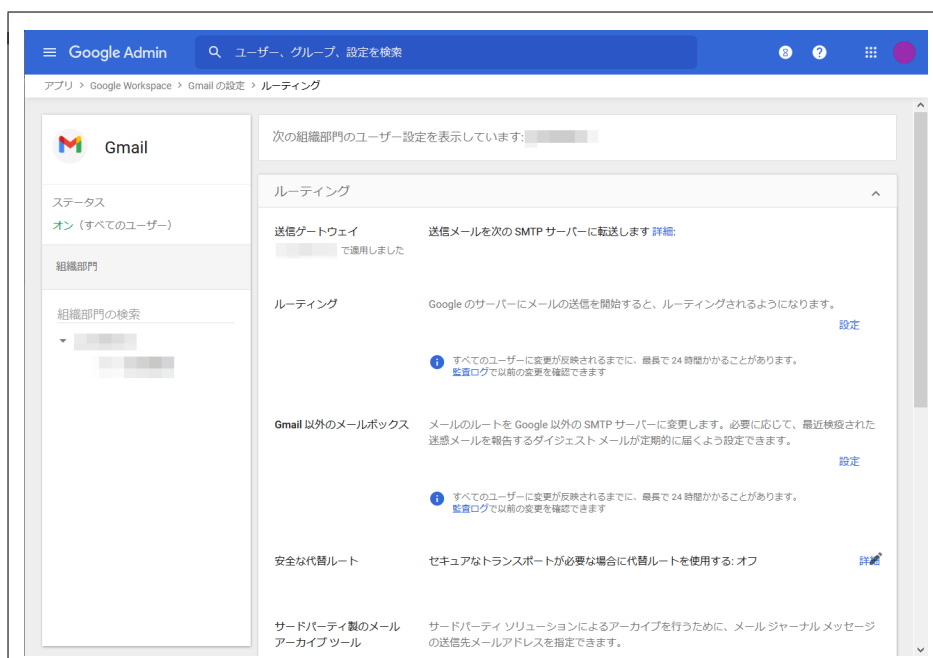
3.5 [ルーティング]にてメールの送信先を変更する



メモ

Google Workspaceの組織部門単位でActive!gate SSを利用する場合は、適用する組織部門を選択後に以降の操作を行ってください。
ただし、弊社メールアーカイブサービス Active!vault SSを併せて利用される場合は、本マニュアルの設定を行う前に必ず弊社営業部または購入した代理店へご相談ください。

「ルーティング」欄の[設定]ボタンをクリックします。



[設定を追加]画面が表示されます。以下の設定に沿って配送先の変更を行います。

設定を追加

ルーティング

Active! gate SS [配送用]

1

1. 影響を受けるメール

☐ 受信

☒ 送信

☒ 内部 - 送信

☐ 内部 - 受信

2

2. 上記の種類のメッセージに対し、次の処理を行う

メッセージを変更

ヘッダー

☐ X-Gm-Original-To ヘッダーを追加

☐ X-Gm-Spam ヘッダーと X-Gm-Phishy ヘッダーを追加

☐ カスタム ヘッダーを追加

件名

☐ 件名の先頭に追加するカスタム テキスト

ルート

☒ ルートを変更

☒ 迷惑メールのルートも変更する

☐ この受信者からのバウンスメールを送信元に送信しない

[Active! gate SS] 配送用

エンベロープ受信者

☐ エンベロープ受信者を変更する

迷惑メール

☐ このメッセージには迷惑メールフィルタを適用しない

添付ファイル

☐ メッセージから添付ファイルを削除

その他の配信先

☐ 受信者を追加

暗号化 (配信時のみ)

☐ セキュアなトランスポート (TLS) を使用

オプションを表示

1	【概要】 概要に表示される説明を入力します。ここでは「[Active! gate SS]配送用」としています。
2	【1.影響を受けるメール】 [送信][内部-送信]ともにチェックを入れます。
3	【3.上記の種類のメッセージに対しては、次の処理を行います】 ルート 「ルートを変更」にチェックを入れます。 「迷惑メールのルートも変更する」にチェックを入れます。 リストから、「ホストの設定」で設定したホストを選択します。 ([Active! gate SS] 配送用)

[オプションを表示]をクリックして設定項目を表示します。

オプションを表示しない

A. アドレスリスト

☐ アドレスリストを使用して、この設定を適用するアプリケーションを除外、制御する

☐ 特定のアドレスまたはドメインにはこの設定を適用しない

☐ 特定のアドレスまたはドメインにのみ、この設定を適用する

B. 影響を受けるアカウントの種類

☒ ユーザー 4

☐ グループ

☐ 認識できない、キャッチオール

C. エンベロープフィルタ

☒ 特定のエンベロープ送信者にも適用する 5

パターン一致

正規表現 [詳細](#)

`^[^+]+$`

[表現をテスト](#)

☐ 特定のエンベロープ受信者にも適用する

キャンセル 保存

4	【B.影響を受けるアカウントの種類】 [ユーザー] にチェックを入れます。
5	【C.エンベロープフィルタ】 [特定のエンベロープ送信者にも適用する] にチェックを入れます。 リストから「パターン一致」を選択し、対象となるユーザのメールアドレスを正規表現で指定します。正規表現には、以下のパターンを指定してください。 <code>^[^+]+\$</code> この正規表現では、+ を含まないすべてのメールアドレスが対象になります。 Google Workspaceでは + を含むアドレスは作成できませんので、正規表現にて制限をさせていただきます。

すべての項目が正しく入力されていることを確認し、[保存]をクリックします。



メモ

正規表現についての詳細は、[正規表現]欄の[\[詳細\]](#)をクリックし、googleのヘルプフォーラムをご覧ください。

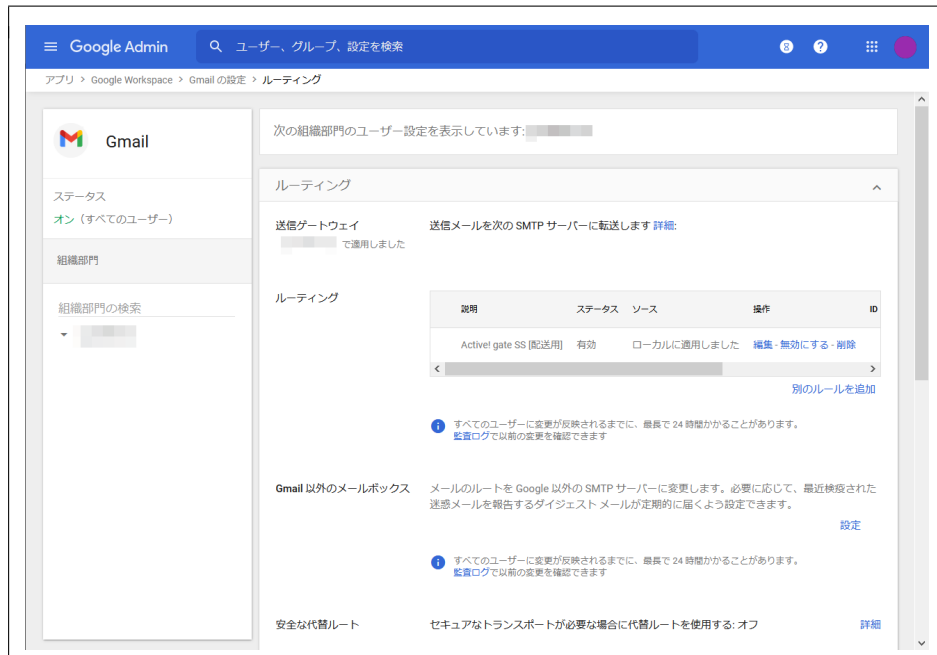


注意

正規表現の文字列の前後にスペース（空白文字）が含まれると正しく動作しない場合がありますので、入力の際はご注意ください。また、[\[表現をテスト\]](#)をクリックして対象となるアドレスを入力すると、正しく動作するか確認することができます。正しく動作していれば、[\[一致\]](#)と表示されます。

3.6 設定の完了

[ルーティング]画面に戻ると、設定済みの情報が一覧表示されます。



以上で全てのユーザーが弊社サービスをご利用される場合の設定を終了とします。

4 一部のユーザーがActive!gate SSをご利用される場合の設定

お客様のGoogle Workspaceドメイン又は選択した組織部門のうち、一部のユーザーに対し弊社サービスと連携する手順をご説明します。



注意

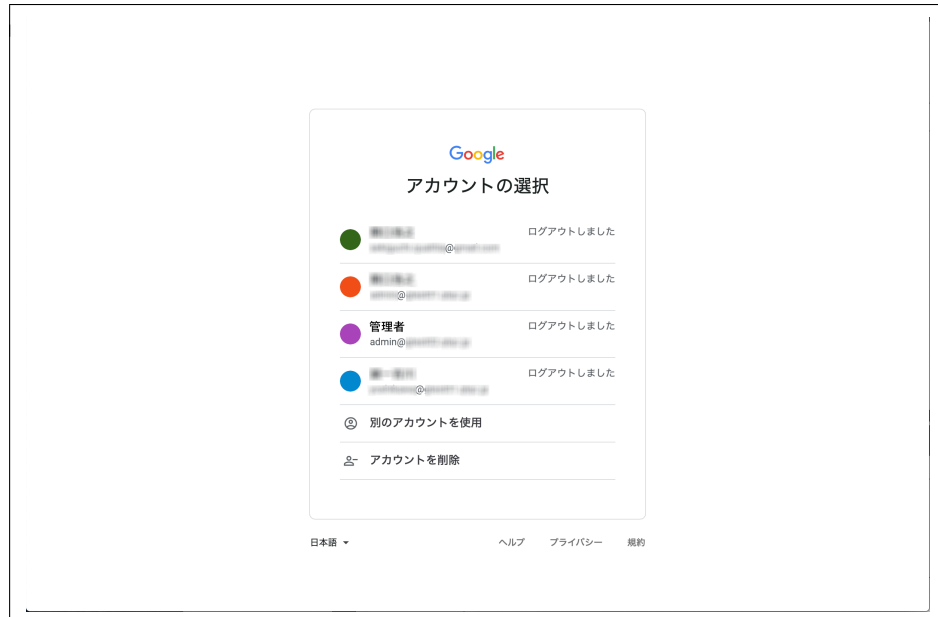
Google Workspace組織部門単位でActive!gate SSを利用し、かつ弊社メールアーカイブサービス Active!vault SSを併せて利用される場合は、本マニュアルの設定を行う前に必ず弊社営業部または購入した代理店へご相談ください。2021年7月以前のマニュアルを使用されると、予期しない動作を引き起こす可能性があります。ご注意ください。

4.1 Google Workspace 管理者にてログイン

Google Workspaceの管理者画面にて管理者権限でログインをしてください。

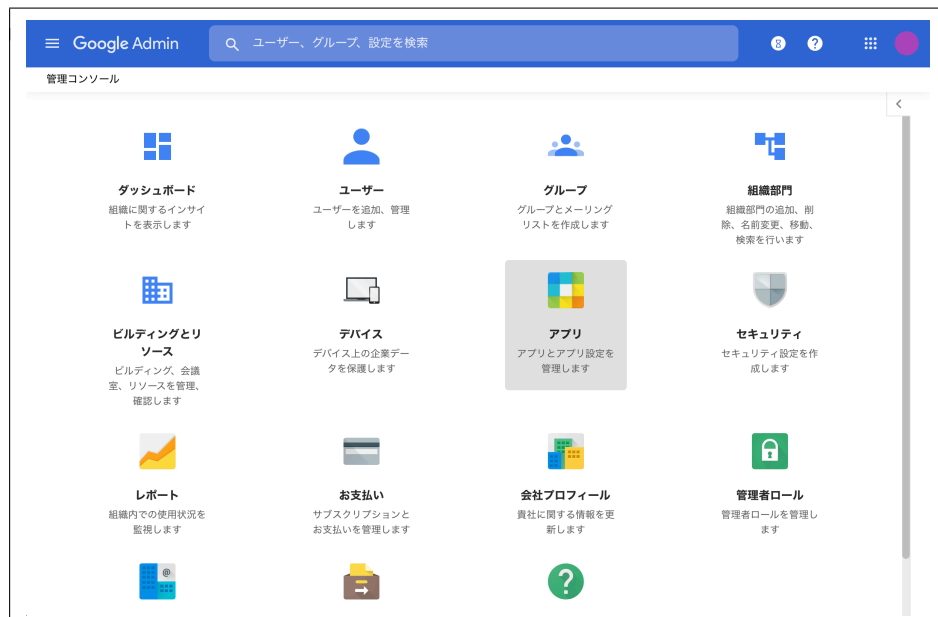
【URL】<https://www.google.com/a/DomainName> ^a

^a DomainNameはお客様がご利用されてるGoogle Workspaceのドメイン名です。
例：https://www.google.com/a/xxxxxx.example.jp/

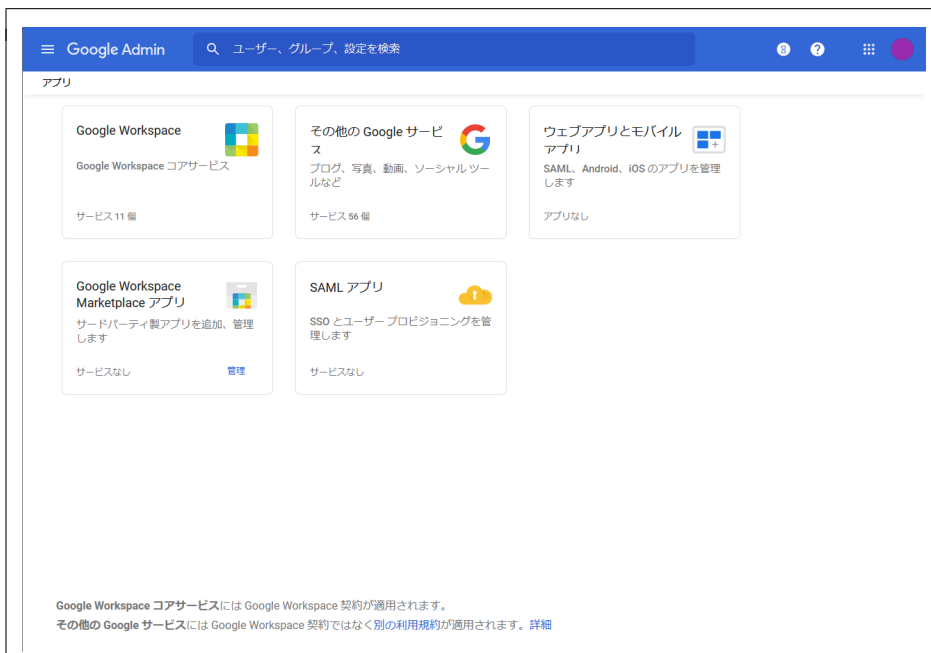


4.2 [設定]画面へ移行する

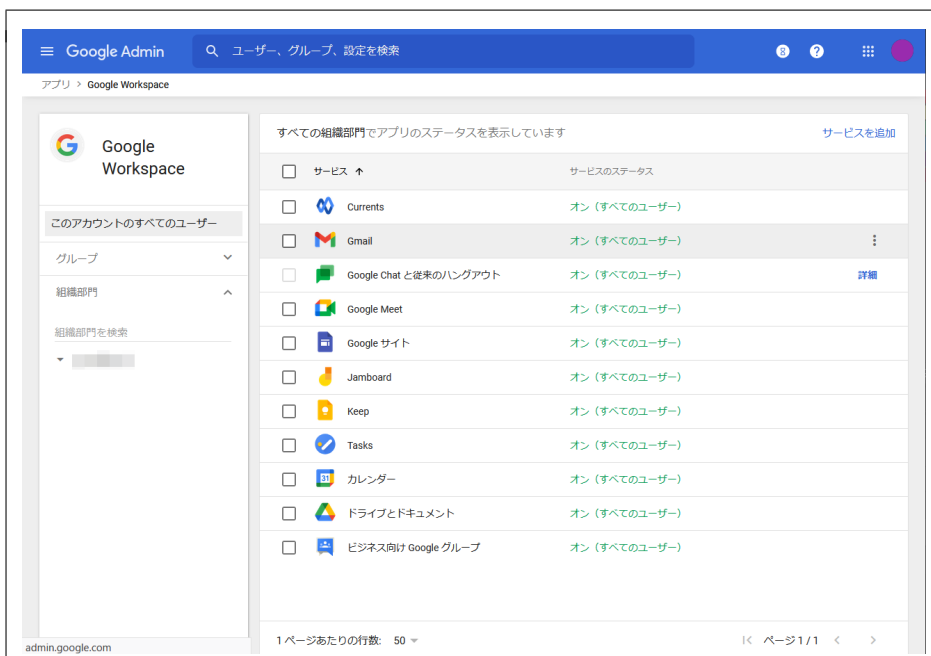
ログイン後 管理コンソールと呼ばれる画面に入ります。[アプリ] をクリックします。



次の画面へ移動しましたら続いて [Google Workspace] をクリックします。



次の画面へ移動しましたら続いて [Gmail] をクリックします。

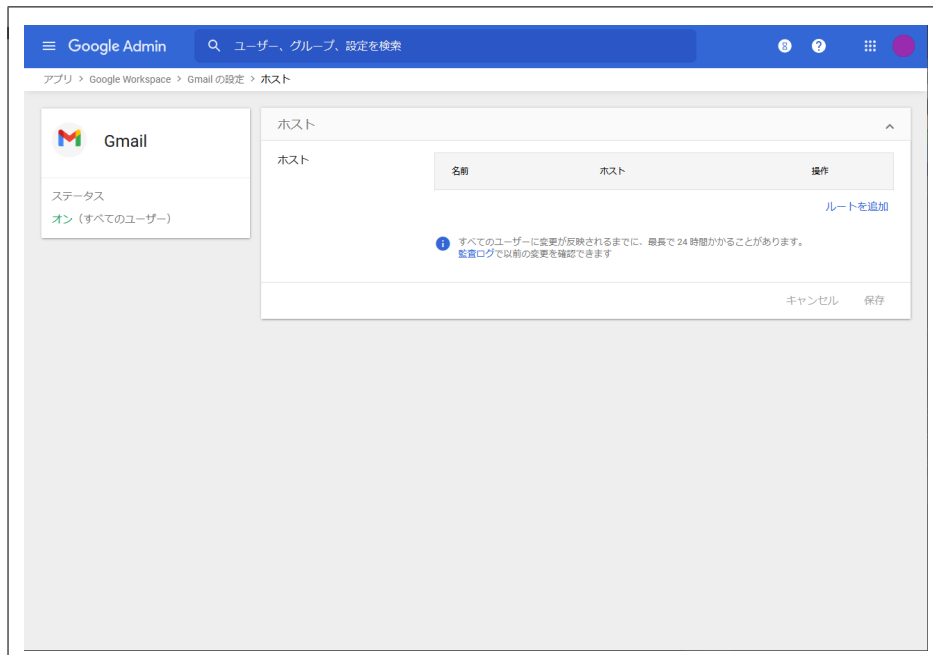


[Gmail] を管理する画面に移動します。画面下部にある [ホスト] をクリックします。



4.3 [ホスト]を設定する

設定画面の右下にある[ルートを追加]をクリックします。



設定画面が表示されますので、下記の通りに入力します。

メールのルートを追加

名前

[Active! gate SS] 配送用

このフィールドは必須です。

1. メールサーバーの指定

番号が 25、587、1024～65535 のポートのみ使用できます。

単一のホスト

: 25

2. オプション

☐ ホストで MX ルックアップを実行する

☒ メールを送受信時にセキュリティ プロトコルで保護された (TLS) 接続を必須とする (推奨)

☐ CA の署名付き証明書を必須とする (推奨)

☐ 証明書のホスト名を検証する (推奨)

TLS 接続をテスト

キャンセル

保存

1

【名前】

設定するホストの名前を設定します。ここでは「[Active! gate SS]配送用」としています。あとでわかりやすい名前にすることをお勧めします。

<div>2</div>	<div>【メールサーバの指定】</div> <p>リストから「単一のホスト」を選択し、下の入力欄にホスト名とポート番号を入力します。 ポート番号は25です。</p> <div><div>!</div><div>注意</div><p>ホストはお客様ごとに異なります。サービス開通確認書に記載の「送信用ホスト」を入力してください。 トライアルのお客様は、トライアルユーザー様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「Google Workspace」に表示されている「送信用ホスト」を入力してください。</p></div>
	<div>3</div> <div>【オプション】</div> <p>以下の通りに設定します。</p> <p>ホストでMXルックアップを実行する <input type="checkbox"/> チェックしない</p> <p>メールの送受信時にセキュリティプロトコルで保護された(TLS)接続を必須とする <input checked="" type="checkbox"/> チェックする</p> <p>CAの署名付き証明書を必須とする <input type="checkbox"/> チェックしない</p>

すべての項目が正しく入力されていることを確認し、[保存] をクリックします。



設定してから反映されるまでに最大24時間かかる場合があります。

4.4 [ルーティング]にてメールの送信先を変更する



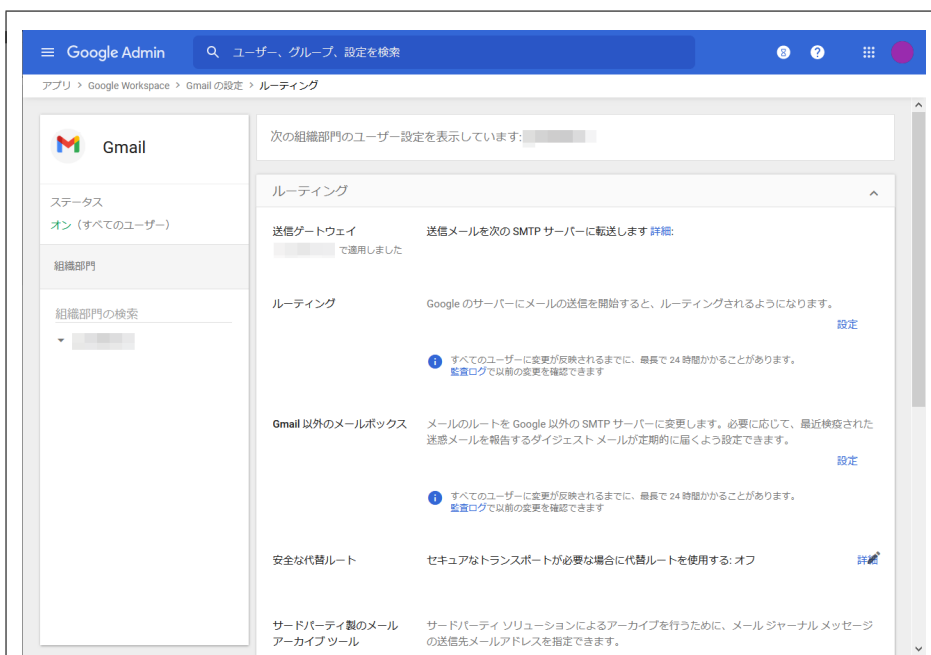
メモ

Google Workspaceの組織部門単位でActive!gate SSを利用する場合は、適用する組織部門を選択後に以降の操作を行ってください。
ただし、弊社メールアーカイブサービス Active!vault SSを併せて利用される場合は、本マニュアルの設定を行う前に必ず弊社営業部または購入した代理店へご相談ください。

Gmailの設定画面に戻り、画面下部にある [ルーティング] をクリックします。



「ルーティング」欄の[設定]ボタンをクリックします。



[設定を追加]画面が表示されます。以下の設定に沿って配送先の変更を行います。

設定を追加

ルーティング

Active! gate SS [配送用]

1

1. 影響を受けるメール

☐ 受信

☒ 送信

☒ 内部 - 送信

☐ 内部 - 受信

2

2. 上記の種類のメッセージに対し、次の処理を行う

メッセージを変更

ヘッダー

☐ X-Gm-Original-To ヘッダーを追加

☐ X-Gm-Spam ヘッダーと X-Gm-Phishy ヘッダーを追加

☐ カスタム ヘッダーを追加

件名

☐ 件名の先頭に追加するカスタム テキスト

ルート

☒ ルートを変更

☒ 迷惑メールのルートも変更する

☐ この受信者からのバウンスメールを送信元に送信しない

[Active! gate SS] 配送用

エンベロープ受信者

☐ エンベロープ受信者を変更する

迷惑メール

☐ このメッセージには迷惑メールフィルタを適用しない

添付ファイル

☐ メッセージから添付ファイルを削除

その他の配信先

☐ 受信者を追加

暗号化 (配信時のみ)

☐ セキュアなトランスポート (TLS) を使用

オプションを表示

1	【概要】 概要に表示される説明を入力します。ここでは「[Active! gate SS]配送用」としています。
2	【1.影響を受けるメール】 [送信][内部-送信]ともにチェックを入れます。
3	【3.上記の種類のメッセージに対しては、次の処理を行います】 ルート 「ルートを変更」にチェックを入れます。 「迷惑メールのルートも変更する」にチェックを入れます。 リストから、「ホストの設定」で設定したホストを選択します。([Active! gate SS] 配送用)

[オプションを表示]をクリックして設定項目を表示します。

④

【B.影響を受けるアカウントの種類】

[ユーザー] にチェックを入れます。

⑤

【C.エンベロープフィルタ】

[特定のエンベロープ送信者にも適用する] にチェックを入れます。

リストから「パターン一致」を選択し、対象となるユーザのメールアドレスを正規表現で指定します。

例) user1@example.jp, user2@example.jp, user3@example.jp を指定する場合

(\\W|^)(user1|user2|user3)@example.jp(\\W|\$)

弊社では、上記構文で一行に100ユーザまで指定して有効であることを確認しています。

すべての項目が正しく入力されていることを確認し、[保存] をクリックします。



メモ

正規表現についての詳細は、[正規表現]欄の[詳細]をクリックし、googleのヘルプフォーラムをご覧ください。

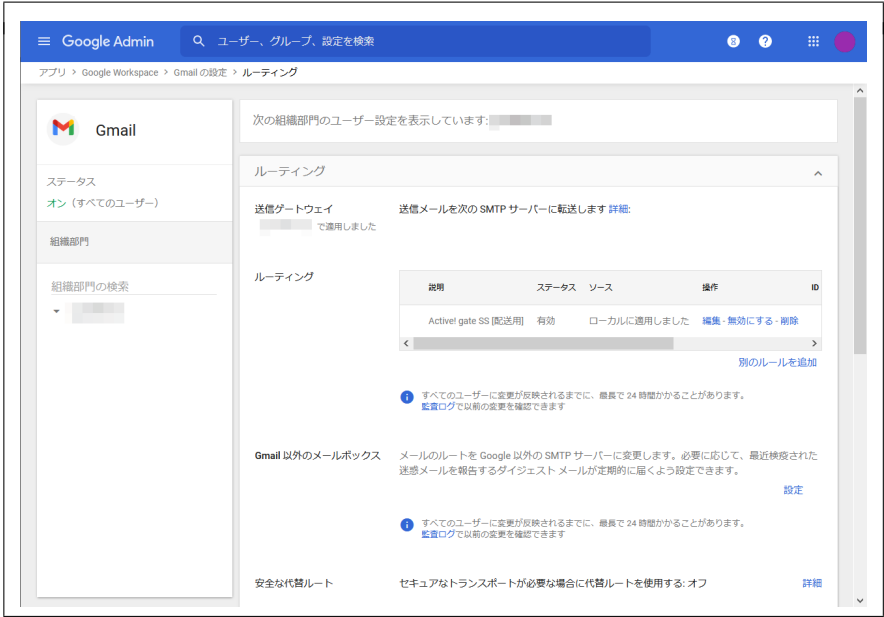


注意

正規表現の文字列の前後にスペース（空白文字）が含まれると正しく動作しない場合がありますので、入力の際はご注意ください。また、[表現をテスト]をクリックして対象となるアドレスを入力すると、正しく動作するか確認することができます。正しく動作していれば、[一致]と表示されます。

4.5 設定の完了

[ルーティング]画面に戻ると、設定済みの情報が一覧表示されます。



以上で一部のユーザのみ弊社サービスをご利用される場合の設定を終了とします。

第3章

Microsoft 365ユーザー向け Active!gate SS との連携手順

Microsoft 365ユーザーに向けたActive!gate SSとの連携についてご説明致します。Microsoft 365をご利用されていないお客様は、別紙、管理者 マニュアル からお読みください。



注意

これは弊社 Active!gate SS サービスを初めてご利用されるお客様へ向けた連携手順マニュアルとなります。

すでに弊社サービス（Active!vault SS サービスも含む）をご利用されているお客様はお手数ですが、現在の環境をご確認の上、ご不明点がございましたら弊社サポートセンターまでご連絡ください。

1 サービス開始前の確認事項

SPFの設定を行っている場合には、下記の通りお客様が使用しているDNSサーバに追記して頂きます様よろしくお願い致します。

下記はMicrosoft 365をご利用されているお客様のSPF設定となります。
ご利用されている環境をご確認の上、追記をお願い致します。

IN TXT "v=spf1 include:spf.protection.outlook.com -all"



IN TXT "v=spf1 include:spf.protection.outlook.com include:_spf.activegate-ss.jp -all"

ファイアウォール等で、IPアドレス制限を設定し特定のIPのみ許可されている場合は、下記弊社IPアドレス範囲に対しての通信も許可頂くようお願い致します。

① 【IP Address】 125.252.89.192/26

② 【IP Address】 223.27.116.0/22

③ 【IP Address】 202.241.206.0/25



注意

[Microsoft 365の注意事項について]

外部のユーザがお客様の Microsoft 365 で作成されたメーリングリスト(グループメール)を使用した場合、EnvelopeFrom がその外部のお客様のアドレス、または "<>" になる場合があります。

弊社側ではメーリングリスト内に外部ユーザが含まれていた場合、EnvelopeFrom がその外部のお客様のアドレスに切り替わり、弊社サービス側で登録されていないユーザとなりエラーを返す事を確認しております。

その場合の回避方法を参照する場合、Microsoft 365サポートに一度お問い合わせくださいますようお願い致します。



注意

[Microsoft 365の注意事項について 2]

Microsoft 365にて管理者、またはユーザが外部のアドレスへ転送設定、リダイレクト設定を行っていた場合、保留通知メールが増殖する危険がありますので絶対にお止めください。

仮に転送設定をご利用される場合は必ず管理者設定の保留ポリシーにて以下のご登録をお願いします。

[ヘッダにX-MS-Exchange-Inbox-Rules-Loopが存在する場合、全宛先宛に対しては保留しない。]

また別途の回避方法を参照する場合、Microsoft 365サポートに一度お問い合わせくださいますようお願い致します。

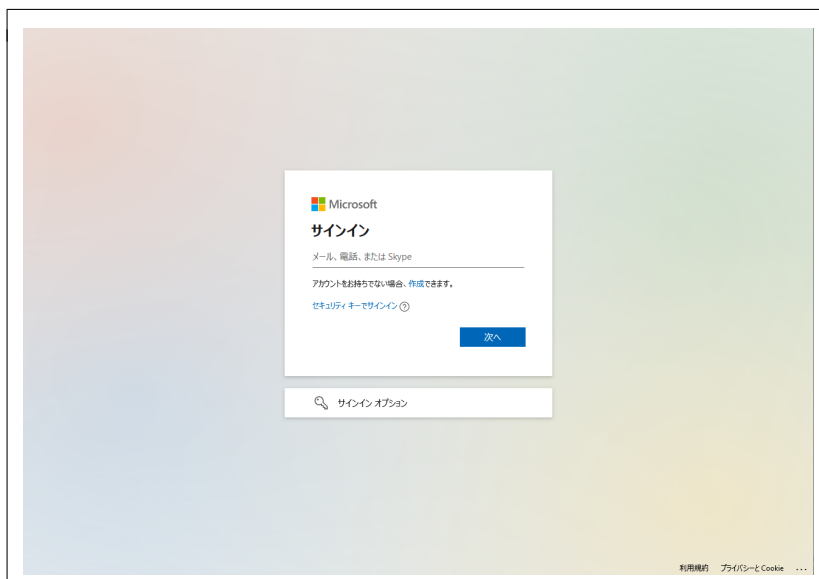
2 全てのユーザーがActive!gate SSをご利用される場合の設定

お客様の全てのMicrosoft 365ユーザーに対してActive!gate SSと連携する手順をご説明します。

2.1 Microsoft 365 管理者にてログイン

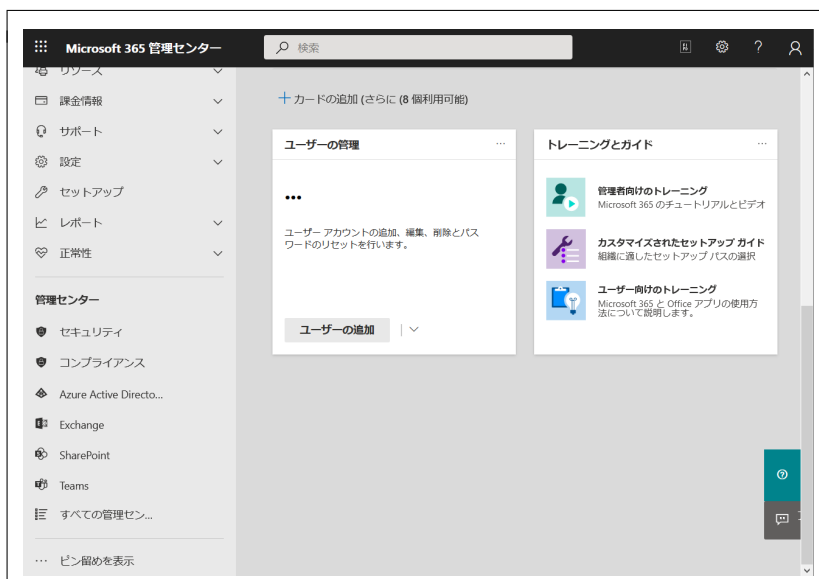
Microsoft 365の管理者画面にて管理者権限でログインをしてください。

【URL】<https://login.microsoftonline.com/>



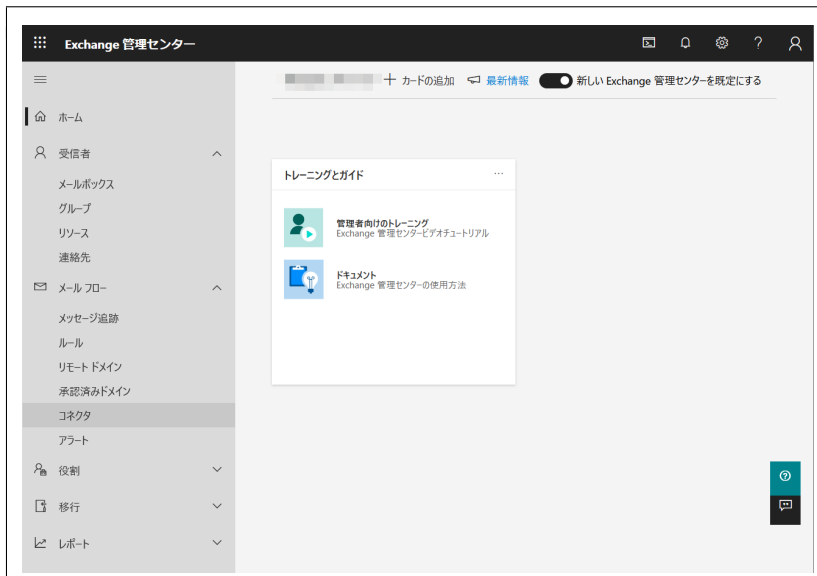
2.2 [Exchange]画面へ移行する

ログイン後、メニューから「管理」を選択してMicrosoft 365管理センターに入ります。Microsoft 365管理センターメニューの[Exchange]を選択します。



2.3 [送信コネクタ]を設定する

[メールフロー]メニューの[コネクタ]を選択します。



[コネクタを追加] をクリックします。



新しいコネクタの設定画面が表示されますので、以下の通り入力してください。入力後は「次へ」をクリックします。

①	【接続元】
	Office365
②	【接続先】
	パートナー組織

①	【名前】
	設定するコネクタの名前を設定します。ここでは「[Active! gate SS]配送用」としています。あとでわかりやすい名前にすることをお勧めします。
②	【説明】
	説明を入力します。
③	【コネクタの保存後に、何を行いますか？】
	オンにする チェックする

①

【コネクタの使用】

「メール メッセージの送信先がこれらのドメインのときのみ」を選択します。

②

【テキスト入力】

テキスト入力欄に * (アスタリスク) を入力して「+」をクリックします。

①

【ルーティング】

「これらのスマート ホストを使ってメールをルーティングする」を選択します。

②

【テキスト入力】

お客様のActive!gate SSホスト名を入力して「+」をクリックします。



注意

ホストはお客様ごとに異なります。サービス開通確認書に記載の「送信コネクタ設定」を入力してください。トライアルのお客様は、トライアルユーザー様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「Microsoft 365」に表示されている「送信コネクタ」を入力してください。

1

【セキュリティの制限】

常にトランスポート層セキュリティ (TLS) を使って接続をセキュリティで保護する
 チェックする
 任意のデジタル証明書 (これには自己署名証明書も含まれます)
 選択する

1

【検証メール】

検証メールの送信先を指定します。メールアドレスを入力して「+」をクリックしてください。
お客様が確認できる外部アドレスを指定してください。

2

【検証ボタン】

登録されたアドレス宛に検証用のメールを送信します。



メモ

設定が正しい場合、検証できる外部アドレス宛てに1通メールが届きますのでご確認ください。

入力した情報が一覧表示されます。内容に間違いがないかご確認ください。[コネクタを作成]をクリックすると保存されます。



コネクタを追加

- 新しいコネクタ
- 名前
- コネクタの使用
- ルーティング
- セキュリティの制限
- 検証メール
- コネクタを確認する

コネクタを確認する

メール フローのシナリオ
接続元: Office 365
接続先: パートナー組織

名前
[Active!gate SS]配送用

状態
保存後にオンにする
名前を編集

コネクタの使用
メールを送信先が次のドメインのときのみ使用する。*
使用を編集

ルーティング
次のスマート ホストを経由してメール メッセージをルーティングします:
ルーティングを編集

セキュリティの制限

戻る コネクタを作成

2.4 [送信コネクタ]の確認

コネクタの作成が完了すると、コネクタ一覧画面に戻ります。作成したコネクタの状態が「オン」になっていることをご確認ください。「オフ」と表示されている場合は、編集画面から「オン」に変更してください。オンとなった時点で、送信メールが順次Active!gate SSを通過していきます。



[オン] とする前に今一度、設定が正しいかご確認ください。

特にスマートホストが正しい値ではない場合、ご利用されるドメインの送信に影響があります。

以上で全てのユーザが弊社サービスをご利用される場合の設定を終了とします。



弊社 アーカイブサービス Active!vault SS をご利用のお客様はここから別紙Microsoft 365ユーザ様向け 連携手順マニュアル: Active!vault SSとの連携手順 をご覧頂きますようお願い致します。

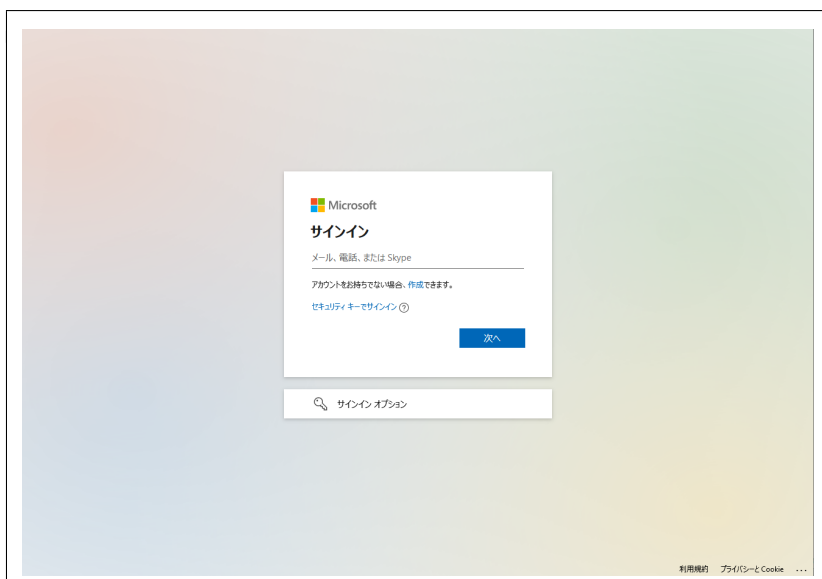
3 一部のユーザーのみActive!gate SSをご利用される場合の設定

お客様のMicrosoft 365ユーザーのうち、一部のユーザーのみActive!gate SSと連携する場合の手順をご説明します。

3.1 Microsoft 365 管理者にてログイン

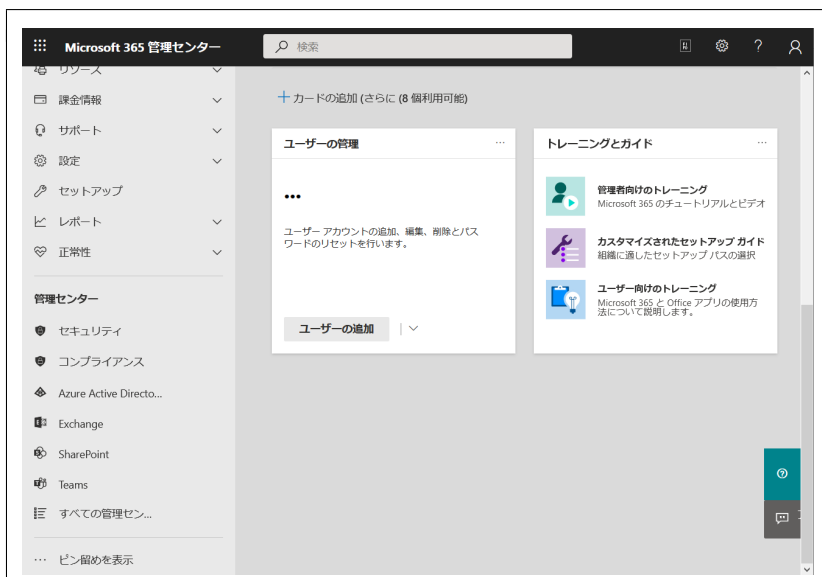
Microsoft 365の管理者画面にて管理者権限でログインをしてください。

【URL】<https://login.microsoftonline.com/>



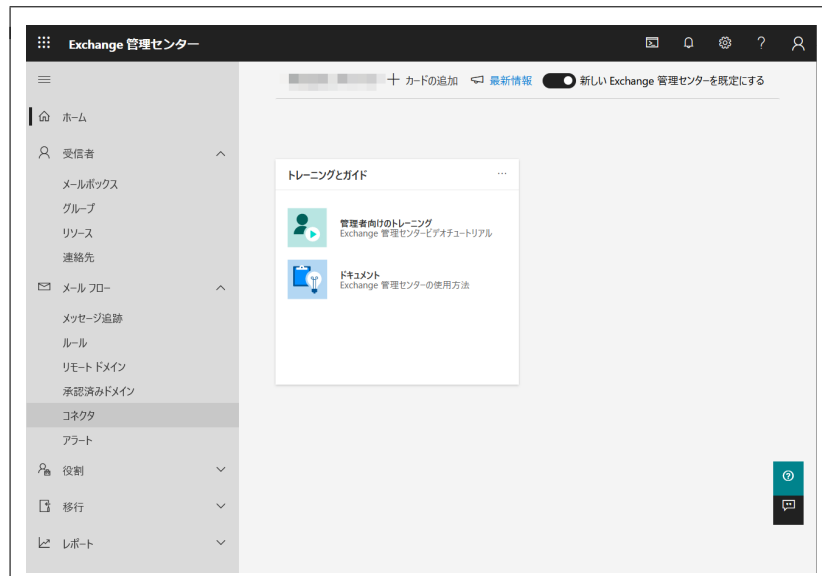
3.2 [Exchange]画面へ移行する

ログイン後、メニューから「管理」を選択してMicrosoft 365管理センターに入ります。Microsoft 365管理センターメニューの[Exchange]を選択します。



3.3 [送信コネクタ]を設定する

[メールフロー]メニューの[コネクタ]を選択します。



[コネクタを追加] をクリックします。



新しいコネクタの設定画面が表示されますので、以下の通り入力してください。入力後は「次へ」をクリックします。

①	【接続元】
	Office365
②	【接続先】
	パートナー組織

①	【名前】
	設定するコネクタの名前を設定します。ここでは「[Active! gate SS]配送用」としています。あとでわかりやすい名前にすることをお勧めします。
②	【説明】
	説明を入力します。
③	【コネクタの保存後に、何を行いますか？】
	オンにする チェックする

1

【コネクタの使用】

「メッセージをこのコネクタにリダイレクトするトランスポート ルールが設定されている場合のみ」を選択します。

1

【ルーティング】

「これらのスマート ホストを使ってメールをルーティングする」を選択します。

2

【ルーティング】

お客様のActive!gate SSホスト名を入力して「+」をクリックします。



注意

ホストはお客様ごとに異なります。サービス開通確認書に記載の「送信コネクタ設定」を入力してください。トライアルのお客様は、トライアルユーザー様専用サイトにログインし、メニュー「お客様設定情報」の「Microsoft 365」に表示されている「送信コネクタ」入力してください。

The screenshot shows the 'Add Connector' (コネクタを追加) screen. On the left, a vertical list of steps is shown: '新しいコネクタ' (New Connector), '名前' (Name), 'コネクタの使用' (Use Connector), 'ルーティング' (Routing), 'セキュリティの制限' (Security Restrictions), '検証メール' (Verification Email), and 'コネクタを確認する' (Check Connector). The 'セキュリティの制限' step is currently selected and highlighted in blue. The main content area is titled 'セキュリティの制限' (Security Restrictions) and contains the following text: 'Office 365 からパートナー組織のメールサーバーへの接続方法を選んでください。' (Select the connection method to the partner organization's mail server from Office 365). Below this, there are three options: a checked checkbox for '常にトランスポート層セキュリティ (TLS) を使って接続をセキュリティで保護する (推奨)' (Always use Transport Layer Security (TLS) to secure the connection (Recommended)), a radio button for '任意のデジタル証明書 (これには自己署名証明書も含まれます)' (Any digital certificate (this includes self-signed certificates)), and an unchecked radio button for '信頼できる証明機関 (CA) によって発行された' (Issued by a trusted certificate authority (CA)). Below the radio buttons, there is a checkbox for 'また、件名またはサブジェクトの別名 (SAN) がこのドメイン名に一致している' (Also, the alternate name (SAN) of the subject or title matches this domain name). Below this checkbox, there is a text input field with the example '例: contoso.com または *.contoso.com'. At the bottom of the screen, there are two buttons: '戻る' (Back) and '次' (Next).

1

【セキュリティの制限】

常にトランスポート層セキュリティ (TLS) を使って接続をセキュリティで保護する
 チェックする
 任意のデジタル証明書 (これには自己署名証明書も含まれます)
 選択する

The screenshot shows the 'Add Connector' (コネクタを追加) screen. On the left, a vertical list of steps is shown: '新しいコネクタ' (New Connector), '名前' (Name), 'コネクタの使用' (Use Connector), 'ルーティング' (Routing), 'セキュリティの制限' (Security Restrictions), '検証メール' (Verification Email), and 'コネクタを確認する' (Check Connector). The '検証メール' step is currently selected and highlighted in blue. The main content area is titled '検証メール' (Verification Email) and contains the following text: 'パートナー ドメインにあるアクティブなメールボックスのメール アドレスを指定してください。パートナー組織に複数のドメインがある場合は、複数のアドレスを追加できます。' (Specify the email address of an active mailbox in the partner domain. If the partner organization has multiple domains, you can add multiple addresses). Below this text, there is a text input field with the example 'sample@example.com' and a '+' button to the right. Below the input field, there is a '検証' (Verify) button. At the bottom of the screen, there are two buttons: '戻る' (Back) and '次' (Next).

1

【検証メール】

検証メールの送信先を指定します。メールアドレスを入力して「+」をクリックしてください。
 お客様が確認できる外部アドレスを指定してください。

2

【検証ボタン】

登録されたアドレス宛に検証用のメールを送信します。



メモ

設定が正しい場合、検証できる外部アドレス宛に1通メールが届きますのでご確認ください。

入力した情報が一覧表示されます。内容に間違いがないかご確認ください。[コネクタを作成]をクリックすると保存されます。

コネクタを追加

新しいコネクタ

名前

コネクタの使用

ルーティング

セキュリティの制限

検証メール

コネクタを確認する

コネクタを確認する

メールフローのシナリオ
接続元: Office 365
接続先: パートナー組織

名前
[Active! gate SS]配送用

状態
保存後にオンにする
名前を編集

コネクタの使用
このコネクタにメッセージをリダイレクトするトランスポート ルールが設定されている場合のみ使います。
使用を編集

ルーティング
次のスマート ホストを経由してメール メッセージをルーティングします:
ルーティングを編集

戻る

コネクタを作成

3.4 [送信コネクタ]の確認

コネクタの作成が完了すると、コネクタ一覧画面に戻ります。作成したコネクタの状態が「オン」になっていることをご確認ください。「オフ」と表示されている場合は、編集画面から「オン」に変更してください。



注意

【オン】とする前に今一度、設定が正しいかご確認ください。

特にスマートホストが正しい値ではない場合、ご利用されるドメインの送信に影響があります。

設定後、[保存]ボタンを押すと、コネクタ設定画面に戻ります。引き続き一部ユーザーのみを使用させる為の設定、[トランスポートルールの作成]を行います。

3.5 [トランスポートルール]の作成

一部のユーザのみ[送信コネクタ]を使用する為に[トランスポートルール]を作成します。

[メールフロー]メニューの[ルール]を選択します。



[+]ボタン をクリック後、[ルールの新規作成...] をクリックします。



[ルールの新規作成]画面が現れますので、下部の [\[その他のオプション...\]](#) をクリックします。

ルールの新規作成

名前:

*このルールを適用する条件...

1つ選択してください ▼

* 実行する処理...

1つ選択してください ▼

このルールのプロパティ:

☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:

指定なし ▼

このルールのモードの選択:

☒ 強制

☐ ポリシー ヒントありのテスト


☐ ポリシー ヒントありのテスト

[その他のオプション...](#)


クリック


保存

キャンセル


番号に合わせて設定を行います。 を押しますと、新たな設定画面が現れます。


ルールの新規作成

名前:
[Active! gate SS]一部ユーザのみ配送 ルール 

*このルールを適用する条件... 

1つ選択してください

* 1つ選択してください 

送信者...  クリック

受信者...

件名または本文...

任意の添付ファイル...


メッセージ...

送信者と受信者...

メッセージのプロパティ...

メッセージ ヘッダー...

[すべてのメッセージに適用]

 この人物である

外部/内部で

このグループのメンバーである

アドレスに次のいずれかの単語が含まれる

アドレスが次のいずれかのテキストパターンと一致する

受信者の監督の一覧に含まれる

特定のプロパティが次の単語のいずれかを含む

特定のプロパティが次のテキストパターンと一致する

ポリシー ヒントを上書きした

IP アドレスが次の範囲内にあるか、完全に一致する

ドメインが次の値である

☐ ポリシー ヒントありのテスト

☐ ポリシー ヒントなしのテスト

保存

キャンセル

登録されているメールアドレス一覧が並び設定画面が現れます。Active!gate SS を使用させたいユーザを選択し、[追加]ボタン でユーザを追加します。追加後、[OK] を押してください。

表示名	▲ プライマリ メール アドレス
吉岡 太郎	xxxxxxxxxx001@example.co.jp
中井 二郎	xxxxxxxxxx002@example.co.jp
平山 三郎	xxxxxxxxxx003@example.co.jp
片平 四朗	xxxxxxxxxx004@example.co.jp
野々宮 五郎	xxxxxxxxxx005@example.co.jp
鷲頭 六朗	xxxxxxxxxx006@example.co.jp
田中 七郎	xxxxxxxxxx007@example.co.jp

合計 32 件のうち 1 件を選択

一覧からユーザーを選択し、[追加] をクリックします。一覧に含まれていない受信者を追加するには、メールアドレスを入力し、[名前確認] をクリックします。

追加 ->

吉岡 太郎[削除], 中井 二郎[削除], 野々宮 五郎[削除]

名前の確認

OK

キャンセル

クリック

続いて [条件の追加] を行います。① を押しますと、新たなルールが追加できます。

ルールの新規作成

名前:
[Active! gate SS] 一部ユーザのみ配送ルール

*このルールを適用する条件...
送信者が... '吉岡 太郎' または '中井 二郎'
条件の追加 ① クリック


* 実行する処理...
1つ選択してください
処理の追加

ただし次の場合は除く...
例外の追加

このルールのプロパティ:
☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:
指定なし

このルールのモードの選択:
☒ 強制
☐ ポリシー ヒントありのテスト
☐ ポリシー ヒントなしのテスト

保存 キャンセル

番号に合わせて設定を行います。を押しますと、新たな設定画面が現れます。

ルールの新規作成

名前:

*このルールを適用する条件...

送信者が... ▼ '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

および

1 つ選択してください

1

送信者...

受信者...

件名または本文...

任意の添付ファイル...

メッセージ...

送信者と受信者...

メッセージのプロパティ...

メッセージ ヘッダー...

[すべてのメッセージに適用]

2

この人物である

外部/内部である

このグループの...である

アドレスに次のいずれかの単語が含まれる

アドレスが次のいずれかのテキスト パターンと一致する

受信者の監督の一覧に含まれる

特定のプロパティが次の単語のいずれかを含む

特定のプロパティが次のテキスト パターンと一致する

ポリシー ヒントを上書きした

IP アドレスが次の範囲内にあるか、完全に一致する

ドメインが次の値である

このルールのプロパティ:

☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:

指定なし ▼

このルールモードの選択:

☒ 強制

☐ ポリシー ヒントありのテスト

☐ ポリシー ヒントなしのテスト

保存

キャンセル

[送信者の場所の選択]より[組織内]を選択します。

ルールの新規作成

名前:
[Active! gate SS] 一部ユーザのみ配送ルール

*このルールを適用する条件...
送信者が... ▼ '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

および
送信者の場所が...
条件の追加

* 実行する処理...
1つ選択してください
処理の追加

ただし次の場合は除く...
例外の追加

このルールのプロパティ:
☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:
指定なし ▼

このルールのモードの選択:
☒ 強制
☐ ポリシー ヒントありのテスト
☐ ポリシー ヒントなしのテスト

送信者の場所の選択

組織内

OK キャンセル

クリック

保存 キャンセル

さらに [条件の追加] を行います。① を押しますと、新たなルールが追加できます。

ルールの新規作成

名前:

*このルールを適用する条件...

送信者が... ▼ '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

送信者の場所が... ▼ 組織内

1つ選択してください ▼

条件の追加  クリック

* 実行する処理...

1つ選択してください ▼

ただし次の場合は除く...

このルールのプロパティ:

☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:


指定なし ▼

このルールのモードの選択:

☒ 強制

☐ ポリシー ヒントありのテスト

☐ ポリシー ヒントなしのテスト

番号に合わせて設定を行います。 を押しますと、新たな設定画面が現れます。

ルールの新規作成

名前:

*このルールを適用する条件...

送信者が...  '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

送信者の場所が...  組織内

1つ選択してください 

1つ選択してください

送信者...

受信者...  クリック

件名または...

任意の添付ファイル...

メッセージ...

送信者と受信者...

メッセージのプロパティ...

メッセージ ヘッダー...

[すべてのメッセージに適用]

この人物である

外部/内部である  クリック

このグループメンバーである

アドレスに次のドメインが含まれる

アドレスが次のいずれかのテキスト パターンと一致する

受信者の監督の一覧に含まれる

特定のプロパティが次の単語のいずれかを含む

特定のプロパティが次のテキスト パターンと一致する

ポリシー ヒントを上書きした

IP アドレスが次の範囲内にあるか、完全に一致する

ドメインが次の値である

このルールのプロパティ:

☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:

指定なし 

このルールモードの選択:

☒ 強制

☐ ポリシー ヒントありのテスト

☐ ポリシー ヒントなしのテスト

保存 キャンセル

[受信者の場所の選択]より[組織外]を選択します。

ルールの新規作成

名前:
[Active! gate SS] 一部ユーザーのみ配送ルール

*このルールを適用する条件...

送信者が... ▼ '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

送信者の場所が... ▼ 組織内

受信者の場所が... ▼

条件の追加

* 実行する処理...

1つ選択してください

処理の追加

ただし次の場合は除く...

例外の追加

このルールのプロパティ:

☒ このルールを次の重大度レベルで監査する:
指定なし ▼

このルールのモードの選択:

☒ 強制
☐ ポリシー ヒントありのテスト
☐ ポリシー ヒントなしのテスト

受信者の場所の選択

組織外

OK キャンセル

クリック

保存 キャンセル

続いて [実行する処理] の設定を行います。 を押しますと、新たな設定画面が現れます

ルールの新規作成

名前:

*このルールを適用する条件...

送信者が...  '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

および

送信者の場所が...  '組織内'

および

受信者の場所が...  '組織外'

* 実行する処理...

1つ選択してください 

1つ選択してください
メッセージを転送して承認を受ける...
メッセージを次へリダイレクトする...
メッセージをブロックする...
受信者を追加する...
メッセージに免責事項を追加する...
メッセージのプロパティを変更する...
メッセージのセキュリティを変更する...
メッセージの件名の先頭に追加する...
インシデント レポートを生成し送信する...
受信者にメッセージを通知する...


クリック

これらの受信者
ホストされた検査
以下のコネクタ


クリック

保存

キャンセル

[コネクタの選択] の画面が現れますので、[送信コネクタ] で設定した [Active! gate SS] 配送用 を選択します。選択後、[OK] ボタン をクリックし、最後に[保存] ボタン をクリックし、設定を完了します。

ルールの新規作成

名前:
[Active! gate SS] 一部ユーザのみ配送ルール

*このルールを適用する条件...

送信者が... ▼ '吉岡 太郎' または '中井 二郎'

および

送信者の場所が... ▼ '組織内'

および

受信者の場所が... ▼ '組織外'

* 実行する処理...

以下のコネクタを使用する...

このルールのプロパティ:

☒ このルールを次の重大度レベルで監査

指定なし ▼

このルールモードの選択:

☒ 強制

☐ ポリシー ヒントありのテスト

☐ ポリシー ヒントなしのテスト

コネクタの選択

コネクタの選択

[Active! gate SS] 配送用 ▼ 1

OK 2 キャンセル

クリック

3

保存 キャンセル

クリック

下記の様に入力した情報が一覧で見れます。チェックボックスにチェックが入ってる時点で、一部ユーザの送信メールが順次 Active!gate SS を通過していきます。



以上で一部のユーザのみ弊社サービスをご利用される場合の設定を終了とします。



メモ

弊社 アーカイブサービス Active!vault SS をご利用のお客様はここから別紙Microsoft 365ユーザ様向け 連携手順マニュアル: Active!vault SSとの連携手順 をご覧頂きますようお願い致します。

第4章

Google Workspaceの[もっと見る]によるSSO連携について

この章ではGoogle Workspace連携（[もっと見る]によるSSO連携）の申請方法と手順をご説明致します。

1 Google Workspace連携の利用申し込み手順

1.1 弊社営業部に連絡

Google Workspace連携をご希望される場合は、弊社営業部あてに登録に必要な以下の事項を記入の上、連携希望の旨をお知らせください。

[連絡先]

- ・ご契約時にお渡しした「サービス開通確認書」に記載のメールアドレス

[必要な事項]

- ・会社名
- ・お客様ID [Active! gate SS URLに記載の顧客ID]
- ・Google Workspace連携に使用するドメイン

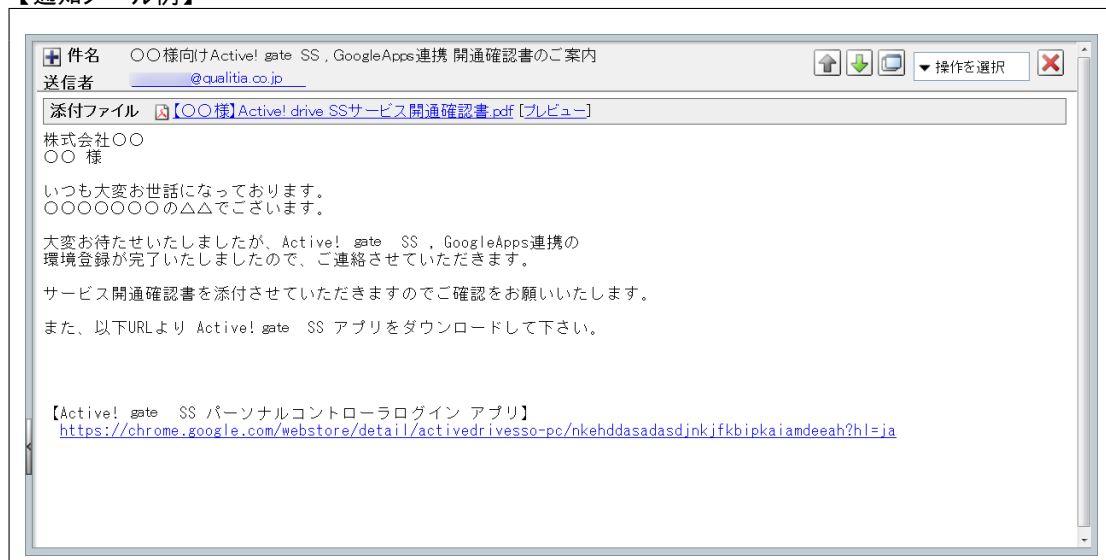
1.2 弊社にてGoogle Workspace Authサーバに情報を登録

連絡後、弊社サーバにお客様の情報を登録します。最短で3営業日～1週間以内に実施します。

1.3 登録完了。マーケットプレイスURL記載の通知メールを返送

登録完了後、弊社営業部より登録完了のメールを返送致します。本文にActive! gate SS、Google Workspace間を連携させるマーケットプレイスURLが記載されています。

【通知メール例】



2 連携用アプリのダウンロードと設定

2.1 通知メールに記載のURLをクリック

本文に記載のマーケットプレイスURLをクリックします。



注意

Google Workspace管理者権限でログインしておいてください。個人ユーザアカウントでマーケットプレイスに遷移すると下記インストール方法よりも複雑になってしまいます。ご注意ください。

【通知メール例】

また、以下URLよりActive! gate SSアプリをダウンロードしてください。
ご利用方法は、管理者マニュアル末尾に記載されています。ご確認ください。

【Active! gate SSパーソナルコントローラログインアプリ】
<https://gsuite.google.com/marketplace/app/activegates/12713671020?hl=ja>

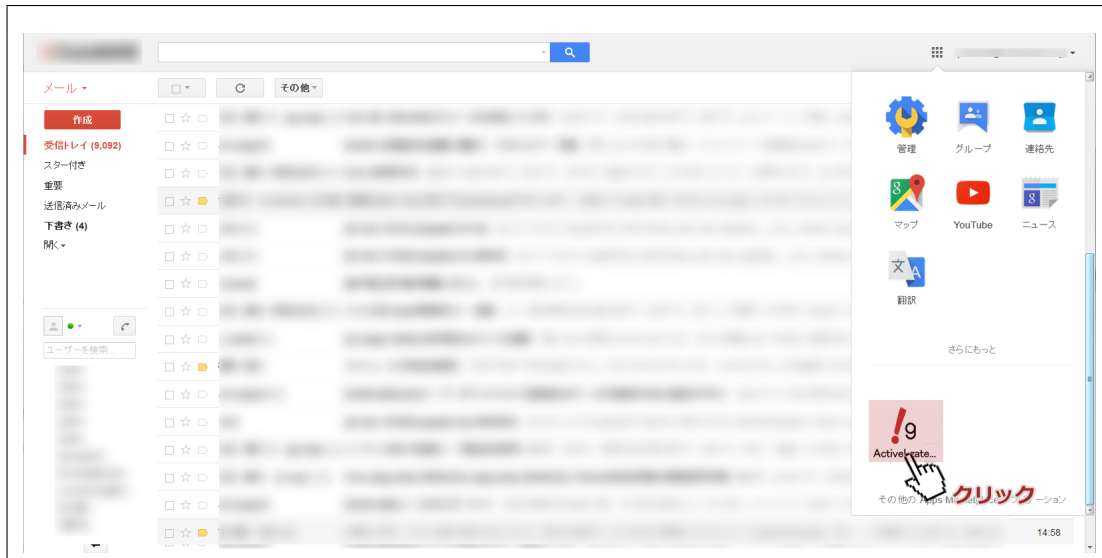
2.2 アプリをインストール

URLをクリック後、下記の様なアプリダウンロード画面に飛びますので[ドメインインストール]をクリックします。



2.3 ダウンロード、設定完了

ダウンロードを行えば、各ユーザの[もっと見る]画面にアプリが出力され、クリックする事で、シームレスにActive!gate SSのパーソナルコントローラ画面にアクセスが可能となります。



Active!gate SS
送信設定マニュアル

発行者 株式会社クオリティア
©2008 QUALITIA CO., LTD.

著作権情報

Active!gate SSのプログラムとマニュアルは、著作権法で保護された著作物で、その全部または一部を許可なく複製したり複製物を配布したり、あるいは他のコンピュータ用に変換したり、他の言語に翻訳すると、著作権の侵害となります。

ご注意

予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。また、本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねます。

商標表示

Active!gate SSは株式会社クオリティアの登録商標です。Active!gate SSのインターフェースおよびマニュアルに記載されているその他会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。